関西大学『社会学部紀要』第52巻第2号，2021，pp.155-210　　ISSN 0287-6817

資　料

昭和戦前期ダンス・音楽関係雑誌目次総覧（6）

永　井　良　和

Cumulative Contents of Japanese Music and Dance Magazines in 1920s-1930s (6) The Dance Fan

Yoshikazu NAGAI

Abstract

In the 1920s and 30s, Modernism was the distinctive feature of Japanese urban culture. To understand that period, an appreciation of jazz music and ballroom dancing are particularly important. Relevant information for reconstructing these phenomena is, however, lacking. This time, three magazines from this period published in Osaka and Amagasaki, Dansâ (The Dancer), Dansu-Fan (The Dance Fan), and Dansu-Jidai (The Dance Time) have been studied with the help of several informants and public libraries. Although there may be many missing numbers, the found issues contain a lot of valuable information that detail the taxi-dance halls that existed in Osaka, Amagasaki, and the Kansai area. Therefore, as a result of the study, I created a log of all the issues that I could find, and reprinted several important articles.

Keywords: Modernism, Japanese taxi-dance halls, Jazz, Ballroom dancing, Music magazines, *Dansâ*, *Dansu-Fan*, *Dansu-Jidai*

抄　録

1920年代から1930年代にかけて、わが国の都市ではモダン文化が開花した。なかでも、ジャズ音楽と社交ダンスの大衆化は、その象徴的現象である。しかしながら、当時の史実を再構成するために必要な基礎資料の整備は、いまだじゅうぶんとはいえない状況にある。この資料では、昭和戦前期に大阪・尼崎で刊行されていた雑誌のうち、『ダンサー』・『ダンスフアン』・『ダンス時代』の3誌について、未発見の号や欠号などがあるものの、関西に存在したタクシーダンス・ホールの詳細を知る手がかりとして、目次を復刻し、重要な記事の一部を翻刻する。なお、この作業は、1995年から1996年にかけて連載した、東京で発行されていた雑誌の目次総覧についての資料の続編にあたるものである。

キーワード：モダニズム、都市文化、タクシーダンス・ホール、ジャズ、社交ダンス、音楽雑誌、『ダンサー』、『ダンスフアン』、『ダンス時代』

（６）『ダンスフアン』1930年～1936年

【凡例】

１．復刻にあたっては掲載当時の目次の体裁を生かした。目次と本文で情報がくいちがうばあいは、その旨を記載した。また、目次に記載がない記事についても〔　〕を付して補っている。ダンスホールの名称については、一部を略記した（尼崎ダンスホール→尼崎、キングダンスホール→キング）。
２．本文の組版は基本的に縦組であるため、原文ページのノンブルは漢数字で記載されている。ここでは算用数字にあらためた。
３．一部の記事を翻刻したが、翻刻にあたってはなるべく掲載時の表記にしたがい、かなづかいや、促音や拗音の文字の大きさもそのままとした。変体がなや異体字などは、可能なものは原文のままとし（「ゐ」「ゑ」）、「え〔江〕」「ネ〔子〕」など元の漢字を補足したものもある。踊り字など横組で表記するのがむずかしいもの、たとえばくりかえしを示す「くの字点」は〔くの字点〕というように補った。漢字については旧字体を新字体に置き換えたが、人名や固有名詞などの一部は旧字体のままとした。
４．記事の翻刻においては、明らかな誤植や脱落、また誤りの可能性が高いとみられる文字であっても原文のままとし、疑問点については〔　カ〕などと補うなどして説明した。ただし、読みやすさを考慮して、改行箇所を１字アケに置き換える、行頭行末の禁則処理について必要に応じて変更するなどしている。
５．現代にあっては不適切とされる表現、地名・固有名詞に関しても、原資料の時代背景や当時の価値観をしめすものとして、そのままにしてある。

【時代背景】

雑誌『ダンスフアン』は、1930（昭和５年）秋に兵庫県川辺郡小田村（現在は尼崎市）で創刊された社交ダンスの専門誌である。

前の回で紹介した『ダンサー』が、1927（昭和２）年の大阪府におけるダンスホール営業禁止という画期前後のようすを伝えるものであったのに対し、今回とりあげる『ダンスフアン』は、阪神国道沿いの尼崎・西宮・神戸にダンスホールが集積するようになった1930年に創刊された雑誌で、その後に展開する阪神間ダンスホールの黄金時代を描き出すメディアであった。２年後には同じ尼崎の地で『ダンス時代』も創刊され、この２誌が並立するかたちでホールの情報が愛好者に伝えられていた。また、こういった雑誌の刊行に刺激を受け、それぞれのホールでも独自の印刷物を刊行するようになる。詳細は略すが、「描かれたダンサー」あるいは「読むダンスホール」という領域が拡大していた時期とみることも可能だ。

『ダンスフアン』は夕刊大阪新聞の記者だった八木亮輔（亮一）によって創刊された。当時の大阪では、ダンスホールやダンサーの情報、読物を掲載する新聞が複数あった。大阪朝日新聞や大阪毎日新聞にも記事は見られるが、より多くの記事を掲載したのが大阪時事

新報や大阪日日新聞、大正日日新聞、関西中央新聞、夕刊大阪新聞などである。ただ、大阪朝日、大阪毎日、大阪時事をのぞくと戦災などで紙面はほとんど失われ、現在では確認することがむずかしい。わずかに、戦前期に刊行された他の出版物に引用されている記事や、愛好者が残していた切抜などによって、断片的に伝えられているのみである。新聞によってはホールやダンサーのスキャンダルを扇情的に書く傾向の強いものもあった。だが、各新聞にはダンスホールについて詳しい記者、ダンスの愛好者や理解者もいて、ダンスブームを側面から支えていた。八木は、そのような新聞のひとつ夕刊大阪の記者であった。

『ダンスフアン』はなぜ、この時期に創刊されたのか。翻刻した「創刊、五周年を迎ふ」という記事に八木（晩我楼主人）が書いている以外につたえられる事情がなく、はっきりしない。けれども、それが、阪神会館ダンスパレスの開業（1935年８月15日）を受けてのことだったろうと推察できる。尼崎では、1927（昭和２）年７月に尼崎ダンスホールが開業、1929（昭和４）年10月に玉江橋近くに移転した。その後、杭瀬ホール（1933年、ダンスタイガーに）、大物北口にキングダンスホールができた。さらに東長洲にダンスパレスが開業したことで、阪神国道沿いの尼崎市・小田村だけで４軒のホールが集中したことになる。「阪国四ホール」と呼ばれたこれらの施設集積が成立し、大阪・神戸からの愛好者を集めたことが、ダンス情報中心の専門誌の刊行の呼び水となった。

> 発行所のダンスフアン社は最初こそ尼崎の東長洲にあったが、大阪市内に拠点をおいた時期もあり、もっとも長く所在地として記載されたのは小田村時代なので、厳密には「尼崎で刊行されていた雑誌」とは言い切れない部分がある。尼崎市と小田村が1936（昭和11）年に合併し、ダンスフアン社がおかれた梶ヶ島浦も尼崎市になった。この経緯を考慮して、「尼崎で刊行されていた雑誌」と記載することをゆるされたい。

『ダンスフアン』という雑誌の名称について。奥付では「ダンス・フアン」と中黒つきで表記されている。もとの英語では２語によって表現されることを忠実にしたがったかたちだ。また、創刊号については表紙でも「ダンス・フアン」と中黒つきでタイトルが記載されている。しかし、現在確認できている第２巻第４号以降では、表紙は「ダンスフアン」と中黒がないかたちで表記され、以後、そのかたちがつづいている。また、第４巻までは「ダンスフアン」と大きく表記するかたちをとり、「ダンスファン」というふうに「ァ」を小さなカナにすることはなかった。

いまから100年ほど前の時代でも、英語の素養のある人びとならば元の発音にちかい「ファン」と発音・表記していただろう。だが、多くの人たちは「フアン」という文字どおりに発音していたはずだ。やや脱線するが、以下に小沢信男の見解を引く。

ところで、あのころのカフェーを、カフェーと外国語風な発音で呼んだのは、教養人たちだけではなかろうか。私の記憶では非教養人たちはことごとくカフエーと、しっかり発音していました。〔中略〕そもそも歴史的仮名遣いでは促音も拗音も小さく表記することはなかった。ちよいと、だつて、シヤツ、コツプという具合で、これを非教養人諸君も、ちょいと、だって、シャツ、コップと無造作に読んだのだが。ビールも軽食もコーヒーさえも若い女性がサービスしてくれる新風俗を、新語でカフエーと書かれれば、これを文字通りに読むのは当然の事。少年の私とて看板は読めたし、大人たちの言葉がいまだに耳になじんでいるのです。

満天下のご高齢の非教養人諸君にうかがいたい。昭和戦前のあのての店は、日本語でカフエーといったよねぇ、喫茶店じゃあるまいしカフェーだなんて……ねぇ。

小沢信男「解説　松崎天民の『銀座』を歩く」（松崎天民『銀座』ちくま文庫所収）

私も、自分の祖父母の世代が、「映画のフアン」「南海のフアンです」「カメラにフイルムを入れる」「カフエに出入りするなんて」というふうに言っていたことを記憶している。おそらくは、この雑誌もダンスの愛好者「フアン」のために出版されたものであり、だからこそ表紙や奥付にも「フアン」と記載されたのだと考える。今回の復刻にあたっては、この雑誌のタイトルについて、「ア」は大きなカナで表記することにしたい。いっぽう、単語のあいだにおかれた中黒については、表紙で長く用いられたかたちを尊重し、中黒を略して『ダンスフアン』と記載する。ただし、先に書いたとおり奥付では「ダンス・フアン」と表記されていて、また、発行所についても「ダンス・フアン社」となっている。

このあとにつづく翻刻をみればわかるとおり、この雑誌は目次のつくりがかなり雑である。目次に記載された記事タイトルと本文でのタイトルの表現がいちじるしく異なっているものもすくなくない。目次が掲載されていない号もある。以下ではそれらを補い、あるいは表現のちがうタイトルについては併記するなどのかたちをとったので、かなり煩雑になっている。この点については読者の理解をもとめる。

さらに、発見できた号に偏りがあり、巻によっては少ない年があって、全体としても欠号が多い。期間によっては編集の遅れで間隔があいたということもあり、また、資金その他の事情からか刊行が延び延びになってしまったこともあるようだ。ほんらいならコレクションを完全なものにしてから目次などの復元・翻刻をするべきではあるが、35年ほども探求してきて見つからないものが、今後もそう簡単に出てくるとは思えないので、現状で確認できた号についての情報のみを先にしめしておくことにした。

この雑誌の編輯は、八木亮輔という個人に負うところが大きい。しかし、創刊当初の編輯・発行・印刷人は近藤庫太郎という人物になっている。この人と、梅本維二郎、坂田勇、小畑清彦とがダンス・フアン社の同人であり、八木は「監輯顧問」として別記される存在だった。しかし、翌1931年４月には近藤が会社から追われている（第２巻第４号の社告）。この号の奥付では編輯兼発行人が花田良一という人物にかわっており、八木の名前もいったん消えた。また、大阪市南区畳屋町にダンス・フアン社大阪発行事務所が開設されていて、本拠が転々とした可能性をうかがわせる。編輯後記には、発行の遅れがあっただけでなく、金銭や人事でのトラブルがあったらしいことも記載されている。

その後の経緯についても、確認できない期間があるため詳細は不明だが、第３巻第２号には婦人記者・下村澪子の手になる記事が掲載されている。下村は、のちに創刊される『ダンス時代』の編輯にあたる人物なのだが、この時点では八木のもとで記事を書いていたことになる。

第３巻になるとダンス・フアン社が神戸市に移転、この際、編輯発行兼印刷人として八木の名が出るようになる。神戸のダンス・フアン社の所在地も、八木の住所と同一で、以後、名実ともに八木がこの雑誌の代表となった。その後、ダンス・フアン社の所在地だけが、まず小田村梶ヶ島浦に移転、のちに八木の住所もここに移る。なお、この第３巻の12月号の印刷は、ナニワ印刷所による。現在はNPCコーポレーションとなっている大阪の商業印刷の老舗だ。印刷所については一定せず、これ以前に三光社が担当していた時期もある。だが、もっとも長く請けていたのはナニワ印刷所であった。

第４巻も確認できた号がすくないため、この間にどのような変遷があったのか、その経緯についてはよくわからない。第５巻になると判型が大きくなり、また写真の分量もさらに増えた。印刷は、ひきつづきナニワ印刷所で、写真のページの仕上がりのよさで技術力の高さを見せている。

表紙のロゴが変更され「ダンスファン」と小さな「ァ」で表記されるようになった。また、これまでの執筆陣にくわえ、東京のダンス教師・玉置眞吉や、和歌山の医師で都山流の尺八の師範でもある金森義雄、それに京都に拠点をおいて活動するプロ・ダンサーの武内忠雄がたくさんの記事を寄せるようになる。号によっては複数の記事を書いているし、目次に同じ執筆者の名が並ぶのを回避したかったのか、ペンネームをつかいわけていると思われるものもある。

これらの人物は、いずれもダンスの理論にくわしく、彼らが常連執筆陣にくわわったことで誌面でもダンスの踊り方を解説するページが目立つようになる。研究志向が強かった

ためだろう、競技会の情報や、その批評などを掲載する記事も多い。また、女性ダンサーのなかでとくに技量のすぐれた者が同性のダンサーとペアを組んで競技するような大会も開かれた。このような試みは、ダンサーが踊りのパートナーになることは風俗営業的な意味での接待サービスではなく、あくまでもダンスの技術を提供することだという主張に裏打ちされたものだった。

当時、東京のプロの社交ダンス教師は組織化が進み、いくつかの団体がつくられていた。それらの団体との交流企画をダンス雑誌が催行し、それを記事化することもよくあった。東京と関西では踏風にちがいがあるというのが一般的な認識で、人によってその表現はさまざまだが、関西のほうがより自由な雰囲気をもっていたといわれる。しかし、いずれの勢力も、自分たちのほうが技術的には優位にあると考えていた。

このような技術の不統一、評価のズレというのは、当時のダンスが「ブック・ダンス」によるものだったことに由来する。欧米で実地にダンスを修得した人はすくなく、多くのばあい、そういった経験者に習うことで技術がひろがった。のちに欧米のダンス解説書が輸入され、また月ごとに刊行される専門誌がもたらされるようになると、それを読んだ人が新しいダンス理論や流行のヴァリエーションを身につける点で優位にたつ。それは、英語などの外国語の能力に左右されるものだった。たとえプロのダンス教師でも英語の素養がなければ技術的に劣位におかれるし、アマチュアであっても英語ができれば、あるいは英語の記事を翻訳させる経済的余裕があれば、プロはだしの技量を身につけることも可能だった。プロとアマの対立が、ダンス界のなかでのさまざまなトラブルを生み、ホールやダンサーも無縁ではいられなかった。東京で刊行されていたプロの教師団体の機関誌でもある『ザ・ダンス』や『ザ・モダンダンス』が関西のダンス誌に掲載された記事を批判する記事を載せ、関西のダンス誌がそれに応酬するというような構図。待望されたのは「ブック・ダンス」という状況を脱することだったのだが、それはすなわち実地に英国風舞踏を教授してくれる人物が来日するか、あるいはダンスと英語の両方の素養をもつ人物が英国に出向いてレッスンを受けてくることだった。

東京では、アレックス・ムーアという英国人のインストラクション・フィルムが輸入され、それを上映、研究したアマチュアが、英国風舞踏の分野で技術的な主導権をとった。いっぽう、同じ東京を拠点としたプロのダンス教師は、1933（昭和８）年、山市太平という若い教師を英国に派遣する。また、1934年には英国のダンス教師アンドルーが来日しデモンストレーションを行うが、東京のアマチュアには不評だった。これが、またプロの教師との溝を深める結果となる。

当時のダンス界に大きな影響力をもっていたヴィクター・シルヴェスターのレッスンを受けた山市は、本場のダンスを修得してくるものとの大きな期待を寄せられるなか1934（昭和９）年に帰国するが、その技術に対する評価は割れた。山市はその後、満洲での社交ダンス普及をめざすが、病を得て1936（昭和11）年に早逝。

いっぽう関西では、ダンロップ極東ゴムに勤務し神戸に住んでいたC. ムーアが、アマチュアながら多くのダンス人に信頼されていた。このC. ムーアが、さきの山市といれちがうように1934（昭和９）年、やはりシルヴェスターのレッスンを受けるために英国まで出かけている。この人の動向は関西のダンス界に大きな影響を与えた。そして、ムーアがもちかえった英国風舞踏技術を解説することが、『ダンスフアン』誌の売り物のひとつだったといえる。ムーアには日本人の妻と子どもたちがいて、戦後も神戸で暮らした。戦後のダンス界に大きな影響を与えた英国人スクリブナーが1955年に来日した際は、通訳の任にあたっている。日本名は若松鹿之助で、父は英国人、母は日本人だったという。1966年に亡くなり、神戸の外国人墓地に眠っている（谷口利一『使徒たちよ眠れ』神戸新聞出版センター）。

もう一点、この『ダンスフアン』誌によって、上海、台湾、「満洲」などのダンス事情も伝えられた。おそらくは、大陸や台湾に向かう船が神戸から出ていたからであろう。人の移動もふくめ、多くの記事が掲載されている。ただ、発見できたのは1936（昭和11）年の９月に刊行された号までなので、以後については他の情報源をさぐる必要がある。

なお、この雑誌での連載などをまとめた武内忠雄編著『ヴアリエイシヨン・ステツプ集（第壹輯）』も出版されている（1936年４月５日印刷・４月10日発行）。発行所はダンスフアン社（尼崎市梶ヶ島浦30）で、監輯者・発行兼印刷者はいずれも八木亮輔、印刷所は合名会社野坂印刷所（大阪市東区南農人町２丁目34）で、定価50銭という冊子である。ステップの解説だけでなく、用語集やダンス教授所の案内などもあり、またダンサーの写真を多数ふくんでいる。本誌でつかわれた素材を再編集したかたちだが、刊行当時のダンス界、とくに関西の状況をよく伝えており、重要な資料といえる。

また、今回の作業の対象範囲にはふくめていないが、『ダンスフアン』は第二次世界大戦後の1950年１月に復刊している。復刊時の編集発行印刷人は八木亮一の名義で、ダンスフアン社は大阪市南区心斎橋電停前の太洋株式会社内におかれている。

【資料の所在と留意点】

今回掲載する『ダンスフアン』誌については、資料の所在確認や複写その他に関して、

以下の個人、機関にひとかたならぬお世話になった。ここに謝意を表したい。

小山賢之介さん 西村貴久男さん 桃谷和則さん 尼崎市立歴史博物館 国立国会図書館

なお、雑誌の現物はいずれも個人蔵である。保存状態の悪いものもあり、修復が必要な号も少なくない。誌面のデジタル化作業をしたうえで、いずれ公開したいと考えている。

また、これまでの翻刻作業の際と同様、図版については転載や引用をせず、文章による説明にとどめた。

【編集者・出版社ほか書誌データ】

第１巻第１号〔定価30銭／編輯人兼発行人兼印刷人　近藤庫太郎（兵庫県尼ヶ崎〔市〕外東長洲)〕／印刷所　三浦印刷所（大阪市南区日本橋４丁目電車通)／発行所　ダンス・フワン社（兵庫県尼崎市外東長洲　電　尼ヶ崎南1024番）

第１巻第２号～第２巻第３号＝未発見

第２巻第４号〔定価25銭／編輯発行兼印刷人　花田良一（神戸市生田町４丁目34ノ４)〕／印刷所　石馬印刷所（大阪市北区樋之上町)／〔発行所　日本舞踏家協会　ダンス・フアン社大阪発行事務所（大阪市南区畳屋町27)〕

第２巻第５号～第３巻第１号＝未発見

第３巻第２号〔定価30銭／編輯発行兼印刷人　八木亮輔（神戸市生田町４丁目34ノ４)〕／印刷所　三光社印刷所（大阪市此花区草開町32)／〔発行所　日本舞踏家協会　ダンス・フアン社大阪発行事務所（神戸市生田区４丁目34ノ４)〕

第３巻第３号～第３巻第４号＝未発見

第３巻第５号〔定価30銭／編輯発行兼印刷人　八木亮輔（神戸市生田町４丁目34ノ４)〕／印刷所　野川印刷所（大阪市西区薩摩堀南之町)／〔発行所　日本舞踏家協会　ダンス・フアン社（兵庫県川辺郡小田村梶ヶ島浦30)〕

第３巻第６号＝未発見

第３巻第７号〔定価30銭／編輯発行兼印刷人　八木亮輔（神戸市生田町４丁目34ノ４)〕／印刷所　野川印刷所（大阪市西区薩摩堀南之町　電話3031番)／〔発行所　日本舞踏家協会　ダンス・フアン社（兵庫県川辺郡小田村梶ヶ島浦30)〕

第３巻第８号～？　＝未発見

第３巻第〔不明〕号（拾貳月号)〔定価30銭／編輯発行兼印刷人　八木亮輔（兵庫県川辺郡

小田村梶ヶ島浦30)〕／印刷所　ナニワ印刷所（大阪市北区此花町)／〔発行所　ダンス・フアン社（兵庫県川辺郡小田村梶ヶ島浦30)〕

第４巻第１号～第４巻第２号　＝未発見

第４巻第３号（３月号)〔定価30銭／編輯発行兼印刷人　八木亮輔（兵庫県川辺郡小田村梶ヶ島浦30)〕／印刷所　ナニワ印刷所（大阪市北区此花町二丁目　電話堀川1393番）／〔発行所　ダンス・フアン社（兵庫県川辺郡小田村梶ヶ島浦30)〕

第４巻第４号～第５巻第３号　＝未発見

第５巻第４号～第５巻第９号〔定価40銭／編輯発行兼印刷人　八木亮輔（兵庫県川辺郡小田村梶ヶ島浦30)〕／印刷所　ナニワ印刷所（大阪市北区此花町二丁目14　電話堀川1393番)／〔発行所　ダンス・フアン社（兵庫県川辺郡小田村梶ヶ島浦30)〕

第５巻第10号〔定価30銭／編輯発行兼印刷人　八木亮一（兵庫県川辺郡小田村梶ヶ島浦30)〕／印刷所　ナニワ印刷所（大阪市北区此花町二丁目14　電話堀川1393番)／〔発行所　ダンス・フアン社（兵庫県川辺郡小田村梶ヶ島浦30)〕

第６巻第１号～第６巻第２号〔定価40銭／編輯発行兼印刷人　八木亮一（兵庫県川辺郡小田村梶ヶ島浦30)〕／印刷所　ナニワ印刷所（大阪市北区此花町二丁目14　電話堀川1393番)／〔発行所　ダンス・フアン社（兵庫県川辺郡小田村梶ヶ島浦30)〕

第６巻第３号～第６巻第５号〔定価30銭／編輯発行兼印刷人　八木亮一（兵庫県川辺郡小田村梶ヶ島浦30)〕／印刷所　ナニワ印刷所（大阪市北区此花町二丁目14　電話堀川1393番)／〔発行所　ダンス・フアン社（兵庫県川辺郡小田村梶ヶ島浦30)〕

第６巻第６号～第７巻第１号　＝未発見

第７巻第２号〔定価30銭／編輯発行兼印刷人　八木亮一（兵庫県川辺郡小田村梶ヶ島浦30)〕／印刷所　中外印刷株式会社（神戸市葺合区吾妻通３ノ17／〔発行所　ダンス・フアン社（兵庫県川辺郡小田村梶ヶ島浦30)〕

第７巻第３号～第７巻第４号〔定価25銭／編輯発行兼印刷人　八木亮一（兵庫県川辺郡小田村梶ヶ島浦30)〕／印刷所　中外印刷株式会社（神戸市葺合区吾妻通３ノ17／〔発行所　ダンス・フアン社（兵庫県川辺郡小田村梶ヶ島浦30)〕

1930（昭和５）年

第１巻第１号＝創刊号　1930年11月号（1930年10月30日印刷納本／11月１日発行）

【目次（主なる読物）】

ダンス競技にお〔於〕ける審判への疑義　梅本維三郎　4
ハリウツドのスタズ〔ヂ〕オ街を風靡したダンス熱　八木亮輔　8
映画〔スター〕俳優ダンス番附及び概評　〔夕刊大阪新聞記者〕　八木亮輔　11
ダンス・ホール寸景　南　天坊　14
独逸の〔辿る〕新興芸術ダンス〔── 第一人者ラーバン氏の事 ──〕　大森清兒　16
エキジビシヨン・ダンス〔の要望〕　梅本維三郎　18
ダンスとレビユウ　永田龍雄　19
ダンサーの噂　36
ダンス・フワンニュース欄　26～36

〔発刊劈頭の言　八木亮輔　3〕
〔表紙の人　フ社の新進スターで踊りの第一人者　マリリン・ミラー嬢　7〕
〔三味線・太鼓に合して芸妓衆の社交ダンス稽古　15〕
〔ダンス・ホールで　徳田秋聲老　鮮やかステツプぶり　21〕
〔遊戯サークルダンス　大阪社交ダンス研究会　22〕
〔ニュース欄の項目は以下のとおり：「阪国四ダンスホールと欣踊社の運動会」「洋装で御座敷へ人気で引張凧のダンス芸妓　東京向島に三〇年型」「この秋！　目だつ洋装」「パレス・ソング」「社交ダンス競技選手権大会」「観艦式祝賀で国道四ホールが競演」「「パリゼツト」の夕」「レコードの選び方（X・Y・Z生）」「蒲田花形軍のパレス見物」「流行して来た！　ニツカー・スーツ」「ダンスを覚えた動機（保田節次）」「秋を迎へて（キングダンスホール支配人　渡邊巧）」「一寸一言（宝塚会館　栗尾弘義）」「新語ノート」「珍しや！　石井漠」〕
〔盛況だった　尼ヶ崎の仮装舞踏会　36〕
〔消息　37〕

【創刊号の解題および翻刻】

淡いピンク色の表紙にはタイトル「ダンス・フアン」の文字があり、11月号であることと、この号が創刊にあたること、さらに月刊での刊行であることが示されている。英文タイトルはTHE DANCE FANとされている。表紙中央にはハート形のイラストがあり、右側には女性のバレエ・ダンサーの立ち姿の写真が、左側にはタキシード姿の男性とイブニングドレスに身をつつんだ断髪の女性が組んで踊っている姿（上半身）のイラストが配されている。男性は白人に見えるが断定できない。

創刊号の広告を以下に列記しておく。表紙裏がポリドール・レコードを扱う茂木日米蓄

音機紹介（大阪市浪速区新川）で、以降、大阪ステーションホテルの創刊祝広告、尼崎ダンスホールの創刊祝とつづく。その後が八木による「発刊劈頭の言」と目次で、そのあとが本文となっている。9ページに「尼ヶ崎ダンスホール　トニー」の創刊祝。10ページに「阪神会館ダンス・パレス」の有井政治の発刊祝。12ページに同じくダンス・パレスの音楽部代表・岡田利典の、また13ページにはキング・ダンス・ホールの平原正信の広告がある。すこしとんで23ページに「大阪社交ダンス研究会」の広告がある。名をつらねるメンバーは、専務理事・山本威雄、顧問の加藤兵次郎と岩佐忠朝、教授の谷口正夫である。この研究会は事務所を大阪市天王寺区上汐に、また研究所を西成区柳通においていた。

24ページにはダンス・パレスの施工を担当した銭高組と吉田工務店の広告がある。さらに25ページにはパレスと杭瀬の両ホールで靴磨きをしていた「中尾」という人の広告もある。26ページにはユニオン・ダンス・ホールの山口豊三郎、27ページにはキング・ダンス・ホールの平茂夫、29ページにはパレスの大村計雄の発刊祝の広告がある。

29ページには大阪の南区心斎橋筋二丁目にあった蓄音機・レコード商のキクヤの広告。31ページはパレスの松村慶三郎、32ページが同じくパレスの能戸薫の広告だ。パレスの関係者や関係企業の出稿が多い点が、この雑誌がパレスの開館を契機として創刊されたものと考えるひとつの根拠である。35ページには室内装飾と洋家具の辻田商店（神戸市旭通）の広告。

奥付のあと、生駒ダンス・ホール オーケストラのメンバー6名による創刊祝、同ホール支配人の島田多米次、それにバンドの梅澤潔一が名をつらねる。40ページ以降は、和田建築事務所の和田貞次郎（大阪市北区中之島　中之島ビルヂング）、婦人洋服のコバチ商会（神戸市加納町）、島田靴店（神戸市下山手）、唐木昇風ら12名の広告、日米写真館（大阪市港区）、同裕泰洋服商（AH SHING TAILOR　神戸市北長狭通）、脇本電機商会（尼崎市中大物）およびパレスの電気部、婦人洋服のカリム商会（神戸市中山手通）と京都ハウス（神戸市元町通）、欣踏社、杭瀬ダンス・ホールとキクチ・エンド・ヒズ上海セレネーダース、キシヤ楽器店（神戸市三宮生田筋）、キャピトル・ダンス・ホールの宮崎武利、エンパイヤ・ダンス・ホールの高垣清之進、家具装飾の今井徳太郎（神戸市元町通）、パレス前ふじ喫茶店、キング前吾作茶屋、パレス前ながすや喫茶店と飲食店の広告がつづく。杭瀬ダンス・ホール隣カフエー・オリエンタル、パレスのサービス係一同（男性7名）、阪神社交倶楽部・杭瀬高級ダンス・ホール、生駒ダンスホール、靜松（大阪市西区新町）、それにThompson's Ginger Ale（神戸市海岸通）とつづく。ジンジャエールは、酒類の提供が禁じられたホールでは欠かせないリフレッシュメントだった。そのあとがキング・ダンスホ

ールで、裏表紙は、開業間もないダンス・パレスの写真入り広告である。

本文の記事にも興味は尽きないが、前回の『ダンサー』誌が３号だけの紹介だったのに対し、今回の『ダンスフアン』誌は欠号が多いとはいえ７年におよぶ22冊の目次を復元しなければならないので、本文の翻刻は最小限とし、重要な記事についても簡単な紹介にとどめ、翻刻や詳細な分析は別の機会にゆずる。

創刊号で目を引くのは、「三味線・太鼓に合して芸妓衆の社交ダンス稽古」という記事だが、これは、東京・新橋の芸妓学校で行なわれたものである。この稽古については、河村徳太郎『新橋を語る』にくわしく記述されている。また、「ダンス・ホールで　徳田秋聲老鮮やかステツプぶり」という小さな記事では、徳田がホールで踊る写真が添えられている。ただ、いつ、どこで撮影されたものかは記載されていない。表紙にバレエ・ダンサーの肖像があしらわれていたことからもわかるとおり、誌面には宝塚歌劇や石井漠などステージ・ダンスにかかわる情報もあり、伝統的な花柳界のことからモダンな音楽趣味まで、かなり幅ひろい読者層の関心にこたえようとしていたようだ。

翻刻　発刊劈頭の言　八木亮輔

ミス神戸とミス大阪は、日本文化の発祥地である。
阪神ラインのダンス・フワンは宝塚の少女歌劇や松竹楽劇、或は河合ダンスなどなど〔くの字点〕他に見られない誇るべき踊りや歌の芸術を創造し育くんで来た。
それが今では全日本にを〔ママ〕代表する素晴らしい華やかなものとなつた。
社交ダンス・ホールの営業は、大阪では現在、許されてゐないが、各家庭内に於ける社交ダンスの熱心な研究ぶり、大小各社交団体の交歓ぶりと大阪に近く六大ダンス・ホールと神戸市内の四ダンス・ホールを加へてダンス・フワンは加速度に殖え〔江〕てゆく、そして――宝塚や松竹の大レビユウが新興日本の文化に、魁した如く、阪神沿道のダンスホールには全日本を代表する世界的ダンス・プレーヤーがゐる筈である。

第１巻第２号～第２巻第３号　＝未発見

第２巻第４号　1931年５月＝オール読物号（1931年５月３日印刷／５月５日発行）

【目次】

グラフ
表紙　ダグラス氏歓迎舞踏会
松竹レビユウ「春の踊」　7
ミス・オホサカ〔大阪〕候補者　8

〔扉〕外国映画の踊り子 9
東西舞踊の名手〔の会見〕 19
〔世界にタツタ一つの〕ダンサーの野球団〔尼ヶ崎ホールに組織〕 21
信貴山上のパレスダンサー 22
尼ヶ崎ホール歓迎舞踏会〔尼崎観桜舞踏会春の歌〕 29
日本髪の金子好惠嬢〔公休日は自宅で〕 35
〔タツプ・ダンスの名手　南花屋酒場の〕ヴアジニヤ嬢 40
〔ダンサーは〕女筋肉労働者〔キングでのスナツプ〕 53
〔松竹楽劇部から杭瀬へ入つた〕伏見京子さん 56
信貴山上での〔野外舞踏会に於ける〕パレスのジヤズバンド 59
〔文藝章を貰つた〕藤間静枝さん 60

ダンス界近頃話〔二〕 八木亮輔 10
日本を踊れ〔！　──国際舞踏教授聯盟の公演を見て──〕 梅本伊（ママ）三郎 12
〔世界の魔都〕上海のダンス・ホール俯瞰記 水野正虹 26
上海のダンサー生活 〔婦人運動家〕 山田やす子 31
英国に於〔お〕けるダンス競技規則 玉置眞吉 32
踊りの国民〔ダンス教師及び批評家諸氏に告ぐ〕 齋藤人兆 34
〔全世界を風靡する〕ジヤズ音楽の魅力
〔ローイ・ジヤズ・オーケストラ　バンド・マスター〕 小關良太郎 39
タンゴ礼賛〔此の一文を関西のダンス・フアンに捧ぐ〕 山内武夫 41
横浜のダンス・ホールよ〔お前は〕何処へ行く 〔在横浜〕 牧野　勲 44
世界的舞踊名手の眼に映じた日本の女性〔故パヴロウァ夫人の遺稿から〕 永田龍雄 45
サカロフを見る 石井　漠 48

スナツプシヨツト
〔映画〕俳優となつた〔ダンス界知名の人〕國廣精一郎氏の事 23
後藤新平を色男扱ひ〔「川邊某の頭が上らぬ」と気焔屋〕の岩田蝶子 24
一時間十八分間〔も〕爪先で踊り抜く〔米ダンサーの世界記録〕 25
一週間で四万円のシユヴ〔ア〕リエ　四千時間〔も〕踊り抜く兄妹 25

セニヨーリタ思出づるまゝ〔侭〕 （荒毛　土） 51
新人紹介〔小幡清彦氏、濱野博史氏〕 52
フイツシヤ〔ー〕張りの〔パレスの〕岡田君 54
各ダンス・ホールの「噂」 55
美爪術 （伊藤千太郎） 58
〔カフエ大学〕洋酒常識講座（第一講〔洋酒の区別〕） 59
ダグラス曰く 61
編輯後記 61
表紙写真解説 42
歯を白く丈夫にする〔方〕法 47
一千円の女靴 60
予告 61
〔社告　近藤庫太郎解雇〕 42

第１巻については第２号以後が未発見である。翌1931年に刊行された第２巻についても第３号までと第５号以降が発見できていない。

発券された第２巻第４号の表紙では、デザインされた書き文字で「ダンスフアン」というタイトルが示される。創刊号がゴシック体の活字を並べただけのものだったのとちがい、デザイン性が考慮された。ただ、印刷や用紙の質は、かならずしもよいものとはいえない。また表紙には、日本舞踏家協会発行という文字も添えられている。ただ、途中の号が見つかっていないので、協会の機関誌になった経緯やダンス・フアン社との関係などについては不明である。

この号についても掲載された広告について簡単に紹介しておく。表紙裏が関東煮・天ぷらの大喜（阪神前）と大喜フルーツパーラー（阪神前南）。その後、花屋酒場（角谷三治堂ビル１階）とつづく。この花屋酒場の広告には、以下のような記述がある。

> 廿名の女給は何れも社交ダンスを能くし、モダンで感じが柔い女性ばかりの集まりですから、きつときつと〔くの字点〕皆様の御満足を得ると確信します。
> お客様と女給は毎夜の如くダンスを語り、競馬を談じ、スポーツを話さざる夜なく、凡そ近代人生活に関する趣味娯楽の話は津々として尽きません。俗悪低級で、騒音だらけで人を物狂はせるやうなカフエーに厭いたお方は「モンテカルロの一夜」に似た気分を持つ桃色の夢の国「花屋酒場」を訪れ給へ

ここから、ダンスホールとバーとのあいだが分化しきっていなかった点や、増加の一途をたどるカフェーとの差別化をはかろうとする新興勢力があったことなどがうかがわれる。

広告の紹介をつづける。目次のあとに尼崎ホールのレイモンド・ジヤズ・アーチスト、本文中にダンス・パレス ジヤズ・バンド、杭瀬ラツキー・セブン ボーイズ・ジヤズ・バンド、ダンス用投テープや仮装用品、花火などを扱う河村煙光社（大阪梅田新道）、公(いさお)ダンス（大阪市東区八軒家）、神戸のホール・ダイヤ倶楽部、ギリシヤ舞踏美術創作房（堀寅造、大阪市此花区玉川）、塩見婦人洋服店（神戸市加納町）、青葉蓄針商店（大阪市西区京町堀）、高井洋服店（大阪市西区京町堀）、木村ラヂオ商会（大阪桜橋）、宝塚会館、堂ビル地階理髪場、キリンヤ洋品店（大阪桜橋）、日米写真館（大阪市港区九條通）、生駒ダンスホール、尼ヶ崎ダンス・ホール、エー・ヒル商会（神戸市栄町）、洋装雑貨のミサワ（神戸市三宮）、カリム紹介（神戸市中山手通）、ダンス・パレス、大阪社交ダンス研究会、コバチ商会（神戸市加納町）、キシヤ楽器店（神戸市生田前筋）、かしわ銀鍋の錦潟（大阪堂ビ

ル北および大阪戎橋北詰）、吾作茶屋（尼崎大物北口）、保川歯科医院・保川良男（大阪市港区石田町）、ゴールデン・アロー・クラブ（高木久太郎、大阪市東区道修町）、ブラジル喫茶店（大阪市中之島船津橋）、欧風料理の京松（大阪市北区堂島）、山本理髪店（大同ビル４階）、再び公ダンス、宮田写真館（大阪市此花区）、モロゾフ喫茶部（大阪堺筋白木屋前）、心斎橋ホテル（大阪心斎橋北詰）、島田靴店（神戸市山手通）、ジンジャエールのゼイ・エル・タムソン（神戸市海岸通）、荒木洋服店（神戸市旗塚通）。

裏表紙広告は、南花屋酒場（大阪市南区宗右衛門町富田屋横）である。店内のカウンターの向こう側に女性従業員ふたりの姿がある。ひとりはユキ子。もうひとりは「アメリカ娘ヴアジニヤ」で、この女性たちが看板となって宗右衛門町に「純洋式高級酒場」がオープンしたという告知である。なお、この店は、堂ビル１階の店の南の支店という位置づけのようだ。また本文中にヴアジニヤについての記事もあり、15歳の時に松旭斎天勝に招かれて来日したあと、ステージで踊っていた女性だとされる。

以上、広告だけをみても、読者層が大阪、神戸の両都市にひろがっているだろうことや、飲食店や洋品店などとの緊密な関係も読みとれる。

この号では、ダンサー野球団の試合のもようを伝える記事など風俗史的に興味深いものもあるが、写真と簡単なキャプションで記録された屋外ダンス・パーティのことが重要だろう。ダンス・パレスのダンサーやバンドが生駒山上に出張して野外舞踏会が開催されたという事実は、ダンスの規制がきびしくなり、衆人環視のもと屋外で踊ることが禁じられるまでのこととして重要だ。また、キングのダンサーたちの働きぶりを組写真で紹介するコラムもある。

第２巻第５号～第３巻第１号　＝未発見

第３巻第２号　1932年２月号（1932年１月30日印刷／２月１日発行）

【もくぢ】

表紙　ダンス・パレスの小西三四子
写真グラフ　1～12
〔「ワルツ」の夢？　尼崎ダンス・ホールが昭和７年度の新春の陣容
ダンス・パレスの桂宮子さん　神戸に誇る黒人ジヤズ・バンド
尼崎ダンス・ホール演劇の夕　尼崎ダンス・ホール吉田あい子さん
ダンス・パレス奥原正子さん　1932年の婦人美流行　ダンス・パレス上田しづ子さん

横浜の「メトロ」 自殺した山岸さん　Professors of jazz
南海電鉄難波駅前の「ダンス・フアン社」のネオン・サイン大広告塔〕
ダンスホール恋愛十則　晩我楼主人　13
ダンスの心得（D編）　〔故ミス・ケー・テイー〕スミス嬢　14
社交ダンス哲学（B）　井上無三四　17
〔銀幕から返り咲いて　杭瀬ダンスホール三好絹枝さん　19〕
〔一躍して王座を占む　尼ヶ崎ダンスホール佐藤宇良子さん　20〕
アメリカの大学　ダンスする処　荘司シゲキ　22
宝塚歌劇生活六年〔を捨てゝ憧れのダンスへ〕　〔ダンスパレス〕呉羽千恵子　25
混雑せるホールでダンスするとき〔ヘンリー・ジャック述〕　八木亮輔〔訳〕26
簡単に踊れるモダン・タンゴ　宮崎昌久　28
〔職業認識が強く正しければこそ　尼崎ダンスホール　濱ハナ子　32〕
〔大毎主催〕阪神沿線の「あす」を語る〔座談会を賑はしたダンス問題〕　桂　宮子　33
〔名士連の座談会に列した〕その日の感想　桂　宮子　37
別府市の招待で社交ダンスの公演　〔婦人記者〕下村澪子　40
〔評論の頁　我が国主要都市に〕ダンス学校の必要を力説す　齊藤人兆　42
ダンサーもまた筋肉労働者　〔ダンス・パレス〕木村まき子　44
〔木村まき子さんの歯　44〕
〔Yokohama Report〕10銭ホール時代　〔在横浜〕牧野　勲　46
ホールの「噂」　47
〔スナツプ・シヨツト　尼崎ホール視察の国枝史郎氏　『ダンスの草分け』と誇る尼崎の三選市長
似寄つた名の子　堺龍神遊廓の芸妓間ダンス　51〕
〔スペインの舞姫〕テレジイナを見る　〔伊庭　孝〕52
〔舞踏教師になつた内田雅勝氏　52〕
〔巷説紛々〕山岸さんの死〔杭瀬のダンサー瓦斯自殺事件〕　53
ダンス新聞　54

この号までのどこかで、装丁が大きく変わっている。印刷は三光社で、表紙にはダンサーの肖像写真が配されている。また、口絵の写真も増え、ヴィジュアルな要素が占める割合も大きくなった。ダンサーの紹介ページは、大写しの写真と短い紹介文という構成で、こういったページを多くふくむのが、この時期の関西で刊行されるダンス雑誌の定型となる。

また、ダンサーだけでなく、名士の短信にも注目すべきものがある。「尼崎ホール視察の國枝史郎氏」や、「『ダンスの草分け』と誇る尼崎の三選市長」がそれにあたる。

翻刻　『ダンスの草分け』と誇る尼崎の三選市長

二月一日で任期満了する尼ヶ崎市長櫻井忠剛氏は市会多数派市民同志会に擁せられて三度市長の椅子に就いた、櫻井氏は旧尼崎藩主櫻井家の系統、温厚でしかも気骨あり現在の尼崎市には最適任だら

うとの好評をうけてゐる。若い頃は東京で育ち社交界でも大分モテたと人だとのこと
『尼崎はダンス流行の源泉地の感があるが、私なんかはこれでも日本の社交ダンスの草分けだヨ、明治廿年ごろ鹿鳴館で盛んに踊つたものだがその仲間には例の有名な下田歌子女史なんかもゐたよ』といつも人に対して朗らかに語つてゐる。

第3巻第3号〜第3巻第4号　＝未発見

第3巻第5号＝模範ダンス大会号　1932年6月号（1932年6月1日印刷／6月1日発行）

【もくじ】

表紙　甲子園ホテルに於ける本社の舞踏大会エキジビシヨンダンスに出演して受賞された
山口武雄氏令嬢（右）大矢寧明氏令嬢（左）
グラフの頁　1〜10
〔本社主催の社交ダンス大会　美人王国に咲き誇る名花（夏川百合子、九條すま子）
帝都の名手連大挙して西下 東西舞踏教師の勢揃ひ
東京の先生達十二名が花隈ダンスホールでエキジビシヨン・ダンス
演技大会を終わつて直後 花隈ホールのステージを背景に
東京フロリダに於ける社交ダンス選手権大会 受賞者と役員
キングダンスホール藤園の踊 『婦女世界』社主催の宝塚会館に於ける舞踏大会
中山正一氏帰朝歓迎舞踏会　二つの模範ダンス（東京フロリダにて、パレスに於て）〕

東京〔から〕の珍客を迎ふ　花田晩我楼　11
テンポの規定〔テンポについて〕　宮崎昌久　12
ダンスの心得〔G篇〕　〔故ミス・ケー・テイー〕スミス嬢　ムーア・齋藤両氏共訳　18
社交舞踏競技規定〔社交舞踏諸規則　理事会規則〕　〔宝塚会館〕加藤兵次郎　16
而もチケツトはつぶやく〔しかもティケツトはつぶやく〕　荘司シゲキ　21
ブルースの〔新しい〕踊方〔(其二)〕　宮崎昌久　24
〔社交〕ダンスの味　〔真弓舞踏研究所〕真弓正雄　28
〔楽譜　「結ばる恋」「乙女の思ひ出」　31〕
〔ダンサーの元老株　高野美代子引退〕　32〕
〔御挨拶　高野美代子　32〕
〔社交ダンスを ── 誰でもレコードで習へる　33〕
〔簡単に自由に独習し得られる　高橋虎男　34〕
社交ダンスの基本〔世界的標準化に就て　G篇〕　齊藤人兆　39
〔フオツクス〕トロツトの変型新ステツプ　喜須海利充　44
〔東京〕フロリダの模範舞踏競演会　八木亮輔　47
台北のダンス今昔〔台北の屋根の下に踊る今と昔（2）〕　〔在台北　新聞記者〕水町京二　49

小作品
阪神間ホールの名物男吉田貞一氏　20

〔五月晴にも似た〕朗らかな青春　北口勝子さん　〔S婦人記者〕 29
〔近代色を併せもつ〕京の町娘　山田敦子さん　〔S婦人記者〕 28
余りに有名な〔技量と美貌の人〕　小畑しげの〔さん〕　〔S婦人記者〕 51
舞踏教師と其パートナー（市村〔譲治氏〕、白井〔真砂子〕両君） 23
紅の恋とカクテル紅屋の扶美子の諸氏

花隈の演技大会合評〔東京の舞踊教師協会幹部教師の演技大会を観る〕　宮崎昌久・梅本伊(ママ)三郎 53
演技大会感想記〔花隈ホールに於ける演技大会の感想〕　齋藤人兆 57
〔ダンス・パレスにおける東西合同演技大会 60〕
ダンス新聞欄 61
ホールの噂 62
〔全国ダンス・ホール早分り 66〕
〔編輯後記 68〕

第３巻第６号　＝未発見

第３巻第７号＝八月中旬号　1932年８月号（1932年８月15日印刷／８月15日発行）

【もくじ】

表紙 「尼崎ホールのベスト・フオーア」右から宇根政子 吉田あい子 小林春子 藤田敏子の四人
グラフの頁 1～10
〔星、月の下に踊る　陸の人魚　オカダ・エンド・ヒズ・レコーデイング・オーケストラ
社交ダンスの型（姫野宏亮氏・村松葉子嬢）　岩田蝶子（キング）
同じ枝から出た名花二輪（花村君子・花村欣子）　大阪舞踏教師協会（山本威雄氏）
大阪舞踏教師協会の人々
「結ばる恋」と「乙女の思ひ出」レコード完成記念の握手（梅沢清一氏・井川博光氏）
トロンペツトのネメシユ・クルス氏　森川久雄氏　シーク・ボーイ‼ アンデイ君（尼崎）
尾上菊太郎プロにダンスの稽古場が出来る　杭瀬ホールのダンス祭にマルタマの舞妓連
西山茂恭（キヤピトル支配人）〕
展けゆくダンス界　八木亮輔 15
国際教授聯盟演技大会評〔更生第一回の演技会〕　齊藤人兆 16
〔東京のフロリダ全焼　八月六日払暁出火 17〕
〔祇園歌舞練場を舞踊場に改造許可を願出づ 19〕
大学出のダンサー　モダン道中記〔二人道中記〕　木村まき
桂　宮子 21
ダンスの心得〔H編〕　〔故ミス・ケー・テイー〕スミス嬢　ムーア・齋藤両氏共訳 28
シツクスエイト（２）　宮崎昌久 33
舗道〔ペイヴメント〕銀座を往く女の感触　荘司シゲキ 38
ダンスと音楽〔ワルツとタンゴ　八月四日BKから放送〕　〔京都高等工芸教授〕本野精吾 40
舞踊を見る人、習ふ人へ　花柳壽美 42

フアーザー・ステツプ（2）　喜須海利充　43
〔桑山裕氏の近業　44〕
国際舞踏会に芸妓排斥〔大連ホテルの内外人舞踏会で芸妓三十名が排斥された問題〕
〔満洲日報記者〕　南郷三郎〔南部三郎〕　45
〔澤村怜二君　Y生　48〕
感想緑
ダンス学校の必要　〔尼崎ホール〕　中屋敷岩夫　47
緑蔭随想〔ダンサーなるが故に……の言葉聞くとき〕　〔婦人記者〕　下村澪子　32
小作品
働きが唯一の銷夏法　〔尼崎ホール〕　松村壽美子　41
躍進又躍進　〔尼崎ホール〕　佐海須美子　27
無題録　桑山　裕　44
ダンス界の「噂」　49
〔国際舞踏教授聯盟声明書　奥付後　〕

第3巻第8号～？　＝刊行されず？

第3巻第〔不明〕号＝拾貳月号　1932年12月号（1932年12月1日印刷／12月1日発行）

「もくじ」

表紙　プロフエシヨナル・ダンス競技大会に優勝した二組（本社主催昭和七年十月廿九日 ── 甲子園ホテルで）　（右）植田三郎　小林春子（尼崎組）　（左）満田悦之扶　小西三四子（パレス組）
「ダンサー」考（題字頁）　社主　八木亮輔　21
ラムゼーの社交ダンス解説　齋藤人兆・羽室太郎（共訳）　22
英国社交ダンス界近況　新社交ダンス講座著者　宮崎昌久　24
天下御免の間違ひ　シユガー・ステツプ　大阪社交舞踏教師協会相談役　喜須海利充　31
私を救つてくれたもの　徳田秋聲〔（談）・文責渡邊 カ〕　54
性のイデイオロギー的昂奮　評論家　長谷川如是閑　53
今英国で大流行のクラツシユ・ダンス〔別名レストラン・ダンス〕　パレス　岡本邦嗣　34
スローとクイツクの使ひ方〔に就て〕　キング　大鹿　實　40
米国ダンス誌の思出談〔日本及び日本人を中心として米国「ダンス誌」を語る〕
京都　村岡貢〔村岡貞 カ〕　48
アルゼンチン・タンゴの研究　山内武男　56
時勢は移る（多忙だつた〔1932年の〕下半期）　八木亮輔　64
甲子園ホテルに於けるプロ・ダンス競技大会記〔日本で最初の催し　職業選手ダンス競技大会〕
本社員　65
大阪にホールは許可されるか　〔清和会館支配人〕山田義憲〔氏の談　（羽室生）〕　52
家庭ダンス研究所訪問記〔久保富次郎氏・渡邊義夫氏〕　H生　51
〔新説「乳房」論　51〕
大連のダンス界　〔藤沼延子こと〕　山田延愛　55

〔漫話　ダンス靴の話　南天生　58〕
ダンスは痩身薬　柏原医学博士　33
短篇集「ネオン・サイン」　本社編輯　62
台北の二大ダンスホール記〔毎日満員大盛況の台北の二大舞踏場〕　〔在台北〕　根津熊岳　66
大阪舞踏教師協会報〔宣言・規約〕　本社編輯　44
グラフの頁　5～20
〔ミス・シルバーは依然としてナンバーワン（河野銀子）
川島良夫氏（尼崎バンドマスター）
青山定雄氏（キングバンドマスター）
新らしいマネヂヤー紹介 吉田貞一氏（パレス）・喜須海利充氏（尼崎）
大演習記念の仮装舞踏会（キング）
秋季大演習に因んで若手ダンサー連の「ダンス・レヴユー」を上演（パレス）
姫野宏亮氏・青柳武男氏（ダイヤ）　森本豊司（パレス）
滋賀県唯一の公認　琵琶湖ダンスホール　経営者　高木源次郎氏
更生の意気凄まじい東京の二大ダンスホール　銀座ダンスホール・フロリダ
神戸ソシヤル・クラブ　ジヤズバンド
ダンスパレス　梅澤ジヤズ・バンド
ダンス界に誇るべき清楚な白百合の花二輪　宇根政子さん（尼崎）・藤田敏子さん（尼崎）
むかしはオペラで鳴らしたダンスホールの草分け　大澤好子さん（神戸ソシヤル）
台北市羽衣会館ダンスホール　支配人教師　福澤文華氏
人気者のトロンペツト・ボーイ　ネメシユ・クルース氏（パレス）
神戸ソシヤル倶楽部　大改築後新装の姿
本誌主催プロフエツシヨナル・ダンス競技選手権大会

国際教授聯盟秋の演技大会評〔秋のエキジビシヨン・ダンス大会を宝塚会館で観る〕　羽室太郎　68
大阪舞踏教師協会秋の演技大会評〔秋の演技大会を観る〕　羽室太郎・八木亮輔　71
〔東京のホール廻り　静尾幹二　73〕
編輯者より　74

この号の表紙には、英字のタイトルの上に「斯界の権威」という文字が添えられている。この12月号が刊行される前に、同じ尼崎を拠点とした新雑誌『ダンス時代』が創刊されたのを受け、より古くから出ている雑誌であることを強調するためだろう。表紙をめくってすぐのページには、「更生せる雑誌「ダンス・フアン」　本誌の五大特長」という社告がある。この記事中に、「組織変更のため、九、十、十一月の三ヶ月間休刊のやむなきに至りましたが　いよいよ〔くの字点〕確固健実〔ママ〕なる陣容成り更生せる十二月号を発刊するに至りました　切に御寛容を乞ひ更に倍の御後援と御愛読をお願ひします」とある。したがって、新雑誌の創刊を前に、編集や刊行の体制に大きな混乱があったことが推測される。八木は、『ダンスフアン』こそが「斯界の唯一最上」の雑誌であり、執筆者も「斯界の

権威者を網羅」していて、「ダンス界万般の公平なる批判、報道」をなし、「舞踏専門家のみによつて経営編輯される」と、他誌とのちがいを強調する。ただ、「我国に於て最も古い歴史と経験をもち」というのは言い過ぎで、前回紹介した『ダンサー』誌こそが最古のものといえる。

また、巻末の「編輯者より」には、この休刊のいきさつについて「Y生」（八木と推定される）によって情報が補われている。それによれば、以下のとおりである。

> 〔この年の〕八月まで本社にゐた下村濡〔澪 カ〕子女史一族が尼ヶ崎ホールをバツクに矢張りダンスの雑誌を出してゐますが、或る一部では私が買収されたか或はダンス時代という雑誌と合併したとかいふ色々な憶説が伝はりましたが、結局どちらも嘘で、小生〔八木〕は依然健在です。〔中略〕
> 新入社の羽室太郎君は大阪選出の前代議士羽室庸之助氏の息子さんです、今後は翻訳、訪問、営業と八方に活躍して下さいます。
> 今一人近藤正樹氏は神戸方面を主として開拓して下さることになり、両氏とも毎号新しいダンスの解説や研究を書いてくれます。

羽室は、この号でも徳田秋聲のインタビュー記事を担当しているし、このあとの号ではたくさんの翻訳などを手がけた。

また、この号には、簡単ながら国道四ホールの経営をめぐる紛争について書かれている。具体的には、パレスの支配人だった高橋虎男が経営方針の転換から更迭され、それに端を発して杭瀬ホールをめぐる買収合戦が起こったというものである。前後の号が未発見で、以下に記述されている経緯がどのていど事態を伝えているのか確認できないが、他に代わる情報がないので、一部を翻刻する。なお、このあと高橋は杭瀬ホールを手に入れ、自分の名前にちなみ「ダンス・タイガー」を開く。高橋は、尼崎のタイガーを成功に導いただけでなく、中国大陸にも進出したことで知られる。

翻刻　時勢は移る　多忙だつた1932年の下半期（抄）　八木亮輔

踊り場事変　パレスの経営者替る

昭和七年八月十五日の夜十時半ヂヤスト、大阪毎日新聞尼崎通信部の平田潔氏がパレスに経営代表者高橋虎男氏を訪問し、「パレスは既に他人の手に売渡され、明日から新経営者が来るそうですね」と言はれてビツクリして飛び上がつたのが高橋氏である。現在このパレス経営代表者たるものが、自分の管理経営する店を他人の手に渡されてゐるのを知らぬとは、と我耳を疑ひながら、それでも真実を

聞かされて直ちに取るものも取りあえ〔江〕ず資本家の門を叩いて問詰〔詰問 カ〕に及ぶと資本家の代表は予ねて用意してあつたらしく金一封をポーンとほうり出し「兎も角もそれで諦めてくれんか」と、ホンの若干の涙金をもつて撃退せんとした。

勿論、高橋氏はそんな蚊の涙ほどの目腐れ金を受取らう筈がない、パレスへ引返して営業ラスト後一時余りも待ちもうけて〔ママ〕ゐた従業員に斯くと告げ、一同声涙共に下る悲憤慷慨の演説は深夜まで続けられた。

明くれば八月十六日、正午である　新経営者の一統は既に事務所を占有して新営業にかゝり、新経営者代表者吉田貞一氏（現在パレス支配人）と高橋氏との間に、数日間に亘りゴタゴタ〔くの字点〕折衝が続けられたが、要するにお人好しの高橋氏は老獪間某（パレスの持主）のために背負ひ投げをマンマと喰はされ、泣くに泣けない世間的屈辱を与へられたのである。

〔中略〕

杭瀬買収事件　結局皆損で営業取消

パレスの城明渡しを余儀よ〔な カ〕くされた、高橋虎男氏は直ちに元の古巣（昭和四年高橋氏は杭瀬ホールの支配人だつた）杭瀬ダンスホールを一万九千円で買収に着手し、手附金三千五百円を手交して間もなく尼ヶ崎ダンスホールの小西支配人また杭瀬の買収に着手し、これまた手附金千円也を手交した。

一つのホールを二人が買ふ、小西氏は杭瀬ホールの名儀人淺越太一氏に売買交渉を進め、高橋氏は太一氏の親父で出資人である淺越長松氏と交渉を重ねてゐたものである。

事件の内容は迚も複雑にしてゐて長文の検討報告書に依らなければ真相を把握することは難しいが、結果二ヶ月余の抗争で、建物器物一斉を買収登記済の小西派の制〔ママ〕肘する処となり、一万何千円かの買収費を手渡した高橋派は所轄警察との契約期限の十月一日に至るも解決するに至らず、遂に杭瀬ホール従業員の不安動揺陳情嘆願等、次いで淺越父子四人の留置取調事件などあつて十月四日遂に国道第一の古い老舗をもつ杭瀬ホールも営業取消の悲惨な結末を見るに至つた。

気の毒なのは高橋虎男氏である　すること為すことイスカの嘴と喰ひ違ひ散々の不運は氏を完膚なきまで打ちのめした形である。

が然し、鋼鉄の如き意志と燃ゆるが如き希望に満つ熱血漢高橋氏は必ずや捲土重来を期して、近き将来に何事かを為し、我々の期待を空しうする男でないと信し〔ママ〕てゐる。

〔以下略〕

第４巻第１号～第４巻第２号　＝未発見

第４巻第３号　1933年３月（1933年２月28日印刷／３月１日発行）

「本号読物」

パソドブレは〔タイム〕四分の三拍子なり　〔社主〕　八木亮輔　12
〔スクエア・ダンス〕ランサースの踊り方〔(No.1)〕
石井小浪舞踊学園講師　片岡康郎　18〕
新ルンバの踊り方三種と比較〔新らしく発表されたルンバの踊り方　三種類の比較検討〕
ダンス・パレス教授部主任　岡本邦嗣　22
ランチエラの踊り方　〔東京社交舞踏教師協会〕　山田健二　15
〔鹿鳴館時代（雑誌『富士』所載）　鳩山文相母堂　鳩山春子女史(談)　17〕
〔セントジヨン・ラムゼー原著社交ダンス解説　No.4　齋藤人兆・羽室太郎(共訳)　26〕

〔天下のブル村　芦屋にダンスホール建設運動　28〕
〔ダンスは礼なり　東京支局長　片岡康郎　29〕
〔スケイタース・ワルツ　フロリダで協議会　30〕
〔社交ダンスは芸術なりや　本社教授部主任　羽室太郎　31〕
教師資格試験問題とその模範解答〔教師資格認定試験問題に就いて〕
大阪舞踏教師協会試験委員　33〕
〔大阪社交舞踏教師協会時報　35〕
〔舞踏漫筆（一）　医博　東山峰夫　36〕
〔エキジビシヨンばやり　晩我楼主人　37〕
〔予告　満洲国ダンス界から愛読者への新題目　大連市　鳥羽田欣踏生　38〕
〔森本豊司氏とパトナ梶原千代子さん（琵琶湖）　39〕
〔東京便り　各地便り　40〕
〔神戸ダイヤ倶楽部教授部新陣容　青柳武夫氏・松井誠一郎氏　41〕
〔ダンス教授者の素質　家庭形と営業系の比較 齋藤人兆　43〕
〔ルムバのオリヂナルヴアリエーシヨン　ゴルドン氏作　片岡康郎　44〕
〔今春の婦人服アラモード　記者　45〕
〔西宮ダンスホールの教師となつた大鳥種治氏　吉田あい子さん（尼崎）　46〕
〔文藝とDANCE　詩聖ラスキンの愛とダンス　御木本隆三　49〕
〔話題の人（1）パレス支配人　吉田貞一氏　Y生　51〕
〔戯詩・ダンサー幻想曲　風たべる女たち　新谷忠雄　52〕
〔満鮮開発に当つて　ダンスの渦巻く大連より　満鮮支社長　鳥羽田重徳　54〕
〔編輯室より　56〕
〔グラフの頁
ムーア男爵夫妻　大衆作家國枝史郎氏夫妻　宇都宮英彦さん
浅田暢夫氏（大阪舞踏研究所代表者）　シヤノ・ラミド氏（キング）　森本豊司氏（琵琶湖）
新舞踊「松島」二見政子さん・大町小夜子さん（パレス）
前田俊三氏・吉桑英文氏（キング）〕

第4巻第4号〜第5巻第3号　＝未発見

第5巻第4号（5月号・プロ・ウオルツ競技大会特輯号）　1934年5月（1934年4月31〔ママ〕日印刷／5月1日発行）

「もくぢ」

表紙の人　桂宮子さん（ダンス・パレス）
……**研究・評論**……
巻頭言〔西は照る照る〔くの字点〕、東は曇る〕　〔八木〕晩我楼主人　5
断寸片〔ダンスフアン〕　八木亮輔　7
一九三四年度踏風（下）〔急廻転をなしつゝある一九三四年度の踏風を巡りて（下）〕　武内忠雄　8
リズムとフイガー〔ダンス音楽のリズムと其フイギユアに対する疑義並に其の解決〕

	医学博士	金森義雄	16
〔金森博士に呈上仕り候		武内忠雄	18〕
五月のレコード批評		玉置眞吉	19
ラムゼイの解説〔社交ダンス解説　No.15〕	（訳）本社	羽室太郎	20
〔イブ・タインゲイト〕スミスの「教授法」	（訳）京プロ	絹川松平	22
スミスの「ワルツの智識」	（訳）	岡本邦嗣	24
〔続〕スロー・フオツクス・トロツトの智識		岡本邦嗣	23
〔精鋭闘将の白熱戦		本社員	41〕
プロフエシヨナル・ワオルツ競技大会批評		武内忠雄	42
		玉置眞吉	42
		岡本邦嗣	43
		羽室太郎	44
		池原　南	44
ダンスの常道に外れる諸因	シルベスター	羽室太郎(訳)	46
ダンス問答欄		本社編輯部	51
初心者のための講座（〔第四講　モダン・〕ウオルツ）		本社教授部	52
スミスとシルベスター〔ダイヤ・グラムの対比研究〕	京都	上田敬三	54
……**随筆・小品集**……			
西国巡礼記（京都三ホール視察）〔西国巡礼雑感　京都三大ダンス・ホールを観る〕			
		玉置眞吉	13
斬人斬馬劔〔剣〕	タンゲ・サゼン	〔丹下左膳〕	15
〔裸にされたダンサ〔ー〕		大門元季	48〕
〔ダンサー献金　陸海軍省へ			48〕
ジヤズの進化（下）		堀内敬三	49
「茶のみばなし」			71
サービス・マン銘々伝（柏原義則氏〔タイガー〕）			76
コンペチシヨン礼賛	横浜正踏社	鈴木康之	73
コント集		羽の字生	50
人事往来			74
新聞のゴシツプのゴシツプ			75
……**時事・ニュース**……			
全京都アマチユア競技会			50
関西社交クラブ月報			77
ボレロのニユウ・タンゴ			62
ダンス新聞			76
全日本オープン競技会			72
全関西ダンサー自由型競技会			69
編輯後記〔雑記〕　五月の三大行事社告			79
全日本選抜デモンストレイシヨン			79
アマチユア・クイツクステツプ競技会			79
武内忠雄氏独演会（花隈）			79
〔グラフ			

パレス・ダンサーのタンゴ・バタン・ダンス　5
浅路欣也さん（パレスNo.1から東山ホールのNo.1へ）　25
働くことが生命　山本清子さん（タイガー）　26
新進の物凄いピツチ　麩山奈良江さん（パレス）　27
パソドブレの鮮やかさ　圧倒的最高点優勝　伏見美子さん（タイガー）　28
ミス・西宮に当選　高瀬嘉子さん（西宮）　29
近代日本社主催のダンサー・ミス・ニツポン　第三等に入賞した有島里江さん（タイガー）　30
麗貌の冴え　向谷玉枝さん（パレス）　31
真剣な働きが彼女を斯くせしめた　小柳貞子さん（ガーデン）　32
才識の冴え　前田静枝さん（タイガー）　断然転向デス　前田静枝　33
なかよし・二人娘さん　田中美也子さん・奈良久子さん（パレス）　34
五月の空の如く　橋本静子さん（パレス）　若鮎のやうに　葉山鮎子さん（タイガー）　35
府見雄氏の京阪ホール入り　36
西宮ホール入りの手みやげに優勝カツプ　光田悦之抉氏　37
浅野和子さん・箸口日那子さん（西宮）　38
ダンス・フアン社主催・第二回プロフエシヨナル・ウオルツ競技大会優勝ベスト・スリー　39
大会審査関係諸氏・競技大会の最高潮　40
家族的、和楽主義のキングダンスホール　58
キング・イズムの波に乗つて　梅澤ジヤズ・バンド　59
シバツヂ・エンド・ヒズ・オーケストラ（花隈）　60
アルキ・ダンス演出の伊東ハンニ氏　61
パ〔ラマウント〕社のダンス映画「ボレロ」のニユー・タンゴ　62〕

第５巻については第３号までが未発見である。この間、どこかの時点で判型をはじめ体裁が大きく変更された。

第５巻第５号（競技〔大〕会特輯号）　1934年６月（1934年６月15日印刷／６月20日発行）

「もくぢ」

表紙の人　美鈴愛子さん（ダンスタイガー）
……**研究・評論**……
巻頭言〔下劣教師！消えて失くなれ〕　八木晩我楼　3
断寸片〔ダンスフアン〕　八木亮輔　7
新時代踏風提唱〔認識せよ！　新時代踏風を（上）〕　武内忠雄　6
六月のダンスレコード批評〔ダンスレコード評（六月のC・P・V）〕　玉置眞吉　13
スペイン舞踏を聞く〔コマース氏を訪問す〕　京都　上田敬三　14
中等科ダンス講座（１）〔社交ダンス中等科講座（１）〕　本社教授部　16
ラムゼイ講座（16）〔社交ダンス解説　No.16〕　〔本社〕　羽室太郎（訳）　19
スミスとシルヴエスタ〔ダイヤグラムの対比研究……其二……〕　京都　上田敬三　21
ダンス問答欄　本社編輯部　37
ボール・ルーム・ダンシングの常道　シルヴエスタ　羽室太郎訳　41

クイツク・ステツプ　ヴエリエイシヨン　シルヴエスタ　羽室太郎訳　32
……**随筆・小品集**……
ワルツの発音に就て　医師　金森義雄　43
大衆向きの〔大〕ホール要望〔報知新聞掲載〕　〔フロリダ支配人〕津田又太郎　43
玉置氏の四訂モダンダンス書評〔玉置眞吉氏の新著『四訂モダン社交ダンス』を評す〕
武内忠雄　47
モダン・ウオルサズ拡充か分裂か〔拡充か、分裂か『モダン・ウオルサズ』検討〕
晩我楼主人　50
モダン・ウオルサズを語る〔(其の一)〕　川北長年　51
ジヤツヂの立場から〔『ジヤツジのジヤツジ評』に対しジヤツジの言分〕
岡本邦嗣　59
「ばんさん後」〔晩餐後〕　本社記者　63
編輯雑記　編輯同人　64
……**時事・ニユース**……
宝塚の全日本オープン競技評〔日仏親善全日本オープン舞踏競技大会評〕　9
「審査員の立場から」〔審査員席からの感想〕　玉置眞吉　9
「批評家の立場から」〔批評文の立場から〕　羽室太郎　11
〔スペイン舞踊で世界一周の旅　タビア氏夫妻来朝　20〕
〔元老、高見君　神戸に健在なり　タカミ・エンド・ヒズ・オーケストラ（ソシヤル）　22〕
〔一九三四年度前京都ウオルツ・アマチユア競技大会批評　武内忠雄　25〕
全日本選抜名手競演大会〔全日本プロフエシヨナル選抜名手デモンストレイシヨン〕　本社員　30
関西社交クラブ月報　33
武内忠雄氏独演会記　八木　生　35
クイツク・ステツプ競技会〔クイツクステツプアマチユア競技大会〕　〔武内忠雄〕　38
京プロ〔第三回〕エキシビシヨン評　一記者　55
〔桂会館ホールと松竹歌劇の提携　55〕
京プロ特輯の頁〔オープンタンゴ競技会〕　57
〔京都各ホール開場時間繰上げ　57〕
全関西ダンサ競技〔大〕会　一記者　58
東京舞踏戦線異状あり　60
ダンス新聞欄　60
ムーア氏送別舞踏大会前記〔シー・ムーア氏渡英送別舞踏会〕　61
人事往来　61
〔グラフ
ジヨゼフエバンス・エンド・ヒズ ブルーメロデイアンス（東山）　26
東山ダンス・ホール　少女ジヤズ・バンド　27
ダビツド エンド・ヒズ ワイルド・タイガース・オーケストラ（タイガー）　28
M. J. M. オーケストラの陣容（パレス）　29
貴公子然と擁えた彼女の燕尾服姿　北條たか子さん（京阪）　34
山本清子さん（タイガー）　36
姉妹そろつて　瀧野君子さん・瀧野珠枝さん（西宮）　40
ワフクモ・ドレツスモヨクニアツタリ　浅路欣也さん（東山）　42

開館一週年を迎へたダンス・タイガーの記念舞踏会 44
クロウトはだしの傑作余興に連夜大喝采 45
山田君子さん（タイガー） 46
家庭に於ける或る日の安藤富士子さん（キング） 48
キングダンスホール五周年記念特別余興　大村美代子さん・加茂仁松氏（キング） 48
琵琶湖ホールから京阪ホールへ　福森園子さん・園田マツ子さん 49
鹿島銀子さん・服部初枝さん（東山） 52
樋口貴美子さん・吉原美代子さん（西宮） 53〕

第5巻第6号（盛夏特輯号） 1934年8月（1934年7月31日印刷／8月1日発行）

「もくぢ」

表紙の人　浅路欣也さん（東山ホール）
……**研究・評論**……
巻頭言（京プロ公認雑感） 医学博士　金森義雄 5
断寸片〔ダンスフアン〕 八木亮輔 7
正しいダンスの秘訣 シルヴエスタ・医博 金森義雄訳 8
新時代踏風提唱（2）〔認識せよ！ 新時代踏風を！（中）〕 武内忠雄 10
社交ダンスの四分野 玉置眞吉 14
京プロ公認を語る〔京都プロフエシヨナル・ダンサーズの公認を語る〕
組合長　武内忠雄 17
スミスとシルヴエスタ〔ダイヤグラムの対比研究〕（其三） 京都　上田敬三 21
クイツクの変型〔A Quick-step Variation〕 ブラツドレー・羽室太郎(訳) 23
アメリカン・ブラツク・ボツタム〔ブラツク・ボツタム・アメリカン〕
医学博士　金森義雄(訳) 24
中等ダンス講座〔社交ダンス中等科講座（2）〕 本社教授部 54
クイツクかトリツクか〔Quick Step? Or Trick Step?〕 ブラツドレー・羽室太郎(訳) 56
ワルツの早い変型〔モダン・ワルツのクイツク・リズム・ヴエリエーシヨン〕 武内忠雄 62
ラムゼイの講座（17）〔社交ダンス解説 No.17〕 羽室太郎(訳) 62
レコード批評〔ダンス・レコード評（七月のC・P・V） 玉置眞吉 63
カリオカ〔Ballroom用に改作された“カリオカ”〕 〔クロツパー創案〕 岡本邦嗣 69
新しいスタンダダイズド・フイガーズ 〔シルヴエスタ氏〕 大鹿實(訳補) 70
K・B・K・R演技会評〔国際舞踏教授聯盟のエキシビシヨン・ダンス印象記〕 羽室太郎 72
……**随筆・小品集**……
神戸へ帰つた私の一夜 武内タヾ坊〔武内忠雄〕 66
玉置眞吉氏の新著〔玉置眞吉氏の新刊書　変型フイガ集 モダン社交ダンスに就て〕
武内忠雄 68
蛇成棲〔ジヤーナリズム〕 福田三郎 75
噂！ 噂！〔噂！〕 編輯同人 76
〔ダンス〕ホールだより 編輯同人 77
編輯雑記 F生記 80
懸賞募集 13

……**時事・ニュース**……
ムーア氏渡英送別舞踏会 6
京プロ規約〔京都社交ダンス教師公認組合『京都プロフエシヨナルダンサーズ』規約〕 18
〔京プロ公認記念総会 20〕
チヤーレストン競技会〔チヤーレストンとフリスコハツプの晴れやかな競技〕 41
〔女給さんのダンス競技会 41〕
タンゴ・オープン競技会評〔タンゴ・オープン競技会批評記〕
審査委員長〔武内忠雄〕 60
〔大津アマタ ダンサーズ 57〕
淡野久美子〔嬢〕送別舞踏会 67
〔キングを背負ふ好カツプル　吉桑、國澤両氏のお手並拝見！ 67〕
世界選手権決定 73
関西社交クラブ月報 74
タンゴ・アマチユア競技会予告〔アマチユア・タンゴ競技大会〕 78
〔組合再組織か 78〕
人事往来 79
〔グラフ
露台　丘弘子さん（西宮） 2
涼風　美鈴愛子さん（タイガー） 3
舞姫連が海のデモ 25
チヤーレストン競技に優勝した西山幾太郎氏・自動車でドライブ！ 26
J・O・B・K放送記念撮影　ダンス・パレス M・J・Mオーケストラ 27
『ギンちやん』鹿島銀子さん（東山） 28
翠を吹ひに　服部初枝さん（東山） 29
昨年は湖畔で 今年は山中翠嵐　坪田道子さん（東山） 30
東山ダンス・ホール　タカチホ・ヨウコ アンド・ハー・ブルーバード ジヤズ・バンド 30
京都・東山ダンス・ホール　ジヨゼフ・エバンス・エンド・ヒズ ブルー・メロデイアンス 31
ウメザワ・ジヤズ・バンド ウメザワ・タンゴ・バンド（キング） 32
八月一日よりのダンス・タイガーは〔中略〕山口豊三郎氏の率いるダンス・オーケストラ 33
また優勝杯！　伏見美子さん（タイガー） 34
異数の躍進　隈田登志子さん（タイガー） 35
楽人インター・ビユウ（1）　チピカ型の潑溂さ　櫻井潔氏（桂） 36
楽人インター・ビユウ（2）　タイガー・ラグの豪快さ　中澤壽士氏（桂） 37
楽人インター・ビユウ（3）ハンガリアン・サキソホニスト　アダム・コバチ氏（桂） 38
楽人インター・ビユウ（4）音楽エトランゼ　ル・シヤノ・ラミド氏（ダイヤ） 39
女教師中の異彩　中濱喜久子さん（タイガー） 40
昔のパレス三傑　鈴村君子さん（尼崎） 42
期待は大きいんです　出口久枝さん（キング） 43
関西型の新人　前田静枝さん（タイガー） 44
丸亀から修業に　浦邊葉子さん（西宮）　新人中の有望組　鎌田歌子さん（キング） 45

奥付には第五年第五号とあるが、第六号の誤りであろう。

この号では「楽人インター・ビユウ」という写真付きのコラムがあり、桂会館の櫻井潔と中澤壽士らが紹介されている。

翻刻　楽人インター・ビユウ（1）チピカ型の潑溂さ　桂会館 櫻井潔氏

昨年夏、タイガーその他のダンス・ホールへ遠征に来た有名な「テイト・タンゴ・アンサンブル」の一行中でも、一等眼を牽き、耳を聳てしめ、関西人を驚嘆せしめたのは櫻井潔氏のバイオリン演奏ぶりだつた。

昨年末、桂会館オープンと共に招聘せられて、今尚ほ桂の、あのギヤラリーで異色ある演奏ぶりに、舞踏界の人々に大きい魅力を与へてゐる。

櫻井氏は山田耕作〔ママ〕氏の日本交響楽団にあつて、第一バイオリンを受け持つてゐた人である。

ダンス・ホールの音楽界にも、どんどん〔くの字点〕と斯んな技術の人が出現して、殊に時代に遅れてゐる我国のタンゴ音楽に一脈清新の気を注いでほしいものである。

翻刻　楽人インター・ビユウ（2）

タイガー・ラグの豪快さ　桂ダンス・ホール　中澤壽士氏

カツラ・メーン・バンドが得意のランバ・ミユジツクに満場の人々が釣り込まれてゐる時に、リーダー中澤氏はマラカス両手に、愉快そのものゝやうなムードが溢れて、キユーバ気分に、我々は浮かされる。

豪快なタイガー・ラグの場合、中澤氏のトロンボンは、天下の独断場である。

新時代的音楽良心の閃めた流麗なるスロー・フオクス・トロツトの巧妙なる演奏法等、我々は京都の大ホールの建物よりも豪華音楽を慕ふて、神戸から、大阪から新京阪電車で桂を訪れること、しばしば〔くの字点〕である。

翻刻　楽人インター・ビユウ（3）

ハンガリアン・サキソホニスト　桂ダンス・ホール　アダム・コバチ氏

コバチ氏と大阪のユニオン・ダンス・ホールで知合ひになつて以来、もう十年にもなる。

コバチ氏は、自分がハンガリヤ人であることを誇りとし、いつもハンガリアン・サキソホニストの名誉のために努力と自重を続けてゐる。

コバチ氏は国元で伯父さんがオーケストラの有名な指揮者であつた関係から、九歳の時から正則的な音楽教育を受け、楽人としては久しい間の経験である。

A・KやB・Kからも時々独奏のアナウンスを聞いたことがある。

日本へ来たのは、神戸オリエンタル・ホテルへ招聘されたのがキツカケで、日本に永住したい憧憬は今も昔も変らない。

翻刻　楽人インター・ビユウ（４）

音楽エトランゼ　ダイヤ・クラブ　ル・シヤノ・ラミド氏

今、日本へ来てゐる比島人楽士の中で、日本のダンス界の人々から最も多く名を知られ、最も多く親しまれてゐるのは、我が親愛なるシヤノ氏である。

ヴアイオリンとサキソホンを携えて世界の都から都へ、シヤノ氏は永い間音楽のエトランゼである。

一九二〇年を振り出しに、或は香港の大劇場に、印度や支那のホテル、或はダンス・ホールに、或は龍田丸の乗組ジヤズ・オーケストラに　斯くして十年の世界音楽旅行から、一九三〇年日本に上陸、阪神間各ダンス・ホールや帝都舞踏場等に勤め、今はコホ〔ス か〕モポリタンの都、神戸のダイヤ倶楽部で比島人メンバーと共にいとも朗らかな生活である。

「シヤノさん、ヴアイオリン巧いは」この人気と喝采を持続するため以外は、何ものもないといつても差支へないシヤノさんである。

第５巻第７号（秋季読物号）　1934年９月（1934年９月14日印刷／９月15日発行）

「もくぢ」

表紙の人　優勝したパレスの水泳チーム（右から）佐野公美 主将、小西三四子、田中清子、森葉子
椿美也子、金田美津子、マネージヤ木本策氏

……**研究・評論**……

断寸片〔ダンスフアン〕		八木亮輔	7
醒めよ我踏界〔評論　醒めよ！ 我が踏界〕		金森義雄	9
音楽とステツプ		玉置眞吉	10
英国三大家の審査意見〔ダンシング・タイムス誌記載〕		羽室太郎(訳)	13
新時代踏風〔認識せよ！ 新時代踏風を！（下)〕		武内忠雄	16
スケイタスのC・B・M〔スケイタス・ウオルツに於るC・B・Mの有無？〕		羽室太郎	18
オールド・フアツシヨン〔ド〕・ダンス〔に就て〕	京都	上田敬三	21
ダンス用語邦訳運動	〔宮崎昌久改め〕	宮崎之良	42
中等科ダンス講座〔社交ダンス中等科講座（３)〕		本社教授部	44
カウンター・リズム	京都	上田敬三(訳)	46
ダンス・レコード批評〔ダンス・レコード（八月　九月）		玉置眞吉	48
〔京都のダンス教授所〕教授所坪数の及す影響		平岡英夫	50
ツヰスト・フオツクス〔・トロツト（捻りフオツス)〕		金森義雄(訳)	53
タツプ・ダンスの必要性		中村　滋	58
教師資格論（一）	東山ダンスホール教授部	佐藤芳男	59
新〔標準〕フイガー二種		岡本邦嗣(訳)	68

……**随筆・小品集**……

ダンサの独り言		晩我楼主人	5
十年前の京都ダンス界〔十年前から今日へ（一）京都ダンスに在りし人々〕	城南舞踏芸術家協会	宮脇重勝	23
噂！ 噂！		編輯同人	64
〔趣味の音楽〕ヴアイオリンの話〔ヴアイオリンの知識〕			67

レコードの針〔は何が徳用か〕 67
渡米する加藤兵次郎氏夫妻〔加藤兵次郎夫妻九月二十日渡米　アルゼンチンタンゴ研究に〕 68
……**時事・ニュース**……
〔万国親善の仮装舞踏会　雲仙の夜を彩る 15〕
琵琶湖クイツク競技評〔オープン・フレツシユマン　クイツク・ステツプ競技会評〕
大会顧問　武内忠雄 22
〔東京ホール組合　勧興税もめる 24〕
〔御挨拶申上げます　三周年記念に当りて　キング・ダンス・ホール経営者　石橋政次郎 41〕
本社主催タンゴ競技会評〔アマチユア・タンゴ協議会と四審査員の競演大会〕　本社記者 54
〔全関西ホール対抗〕ダンサ水上競技〔大〕会記　本社記者 56
〔オール関西〕婦人〔社交〕ダンス競技会〔選手権大会〕記　本社記者 57
〔関西社交倶楽部月報　No.3 61〕
英国よりの近信〔舞踏修業のムーア氏から友人木野氏へ〕　八木亮輔 62
〔日活タンゴ・バンド新編成練習開始 63〕
彼女のタヨリ 69
人事往来 69
マンスリー・ニユース 70
〔醸し出される気分　榛名あけみ（キング） 70〕
柳原武夫氏を〔本社営業部長に〕迎ふ　八木生 72
〔グラフ
タンゴ選手権獲得　里子さん（道頓堀キヤバレー・マルタマ選出） 2
クイツク・ステツプ選手権獲得　チエリーさん（銀座会館大阪支店選出） 3
洋画をバツクに　浅路欣也さん（東山） 4
本社主催　タンゴ競演大会　アマチユア競技入賞者と四審査員のエキシビシヨン 8
Photo-Times　ダンサ水上競技に優勝したパレスチームと応援団の人々
フロリダに米人ジヤズ団　ムーア氏渡英で賑はつた神戸埠頭
映画「ダンシング・レデー」 25
多角形的な芸道精進　光田悦之氏（西宮） 26
タツプ・ダンスでは何んと謂てもNo.1　中村滋氏の寸描 27
『カリオカ』発表　パレスの岡本邦嗣氏 28
本社主催のタンゴ競技に優勝した岡本時旺氏（大阪アマチユア・タンゴ・ソサイテイ） 29
岡本氏門下の逸材　井上一男氏パレスへ 30
全関西アマチユア団体教授所教師選抜エキシビシヨン大会 31
努力報はれて　今ではパレスのNo.1　麩山奈良江さん 32
パレスへ入つた　山本清子さん 33
柳英子さんの海の女王挨拶ぶり（タイガー） 34
ダンス・タイガー養成、新進中の有望三人組の一人　前田静枝さん 35
吉田あい子さん（尼崎）　湊智佐子さん（花隈） 36
艶麗・名花三輪　小幡百合子さん・満壽水葉子さん・入澤吟子さん（パレス） 37
浦邊葉子さん（西宮） 38
マーカス・シヨウの幹部花形一行タイガーに遊ぶ　高橋虎男氏の招宴 39
西宮ホールの『宝玉篇』小島やす子さん 43〕

第５巻第８号（五周年記念号第一輯） 1934年10月（1934年10月14日印刷／10月15日発行）

「もくぢ」

表紙の人　中村溪子さん（東山）

……**研究・評論**……

創刊五週年を迎ふ〔創刊、五周年を迎ふ〕　晩我楼主人　2
断寸片〔ダンスフアン〕　八木亮輔　4
いはゆる「自然〔に〕」の問題　金森義雄　5
舞踏日本の建設〔へ〕　京プロ理事長　武内忠雄　6
教師の資格問題〔教師資格論（其の二）〕　京プロ常任理事　佐藤芳男　11
反胴運動とスウエイ　玉置眞吉　12
いんちき〔自由型用〕フアンシー・ステツプ　上田敬三　41
シーズンス・クイツク　羽室太郎(訳注)　42
〔シーズンス・クイツクツテツプの〕角度に関する一考察　上田敬三　45
中等科講座（クイツク篇）〔社交ダンス中等科講座（４）〕　本社教授部　47
〔元気のいゝ踊り〕「マシシ」　玉置眞吉　48
リルトに関する研究〔『リルト』に就て〕　上田敬三　50
十月のダンスレコード評〔十月のダンス・レコード〕　玉置眞吉　51
スミスとシルベスタ〔ダイヤグラムの対比研究　其四〕　上田敬三　56
「モダンダンス誌」に与ふ〔何が本当であるか？〕　岡本邦嗣　64
サカロフ夫妻〔の舞踏〕を見る　永田龍雄　68

……**随筆・小品集**……

ダンスホール座談会〔ダンス・ホールに関する座談会〕　一記者　53
〔出席の人々　西宮ダンスホール　マスター　安原疏之助、支配人　野々山正夫、
三木西宮署長、加藤医学博士、本社　八木亮輔、大正日日　村上芳雄、
大阪日日　岩佐忠朝、ダンス時代　下村澪子、ガーデン　田中紫軒、キング　加茂仁松、
パレス　岡本邦嗣、タイガー　中濱喜久子、尼崎　膿脂しのぶ〕
日本のダンスホール改善策〔改善を要する日本のダンスホール〕　伊藤正文　59
武内忠雄氏の快記録〔舞踏会空前の快記録を作つた武内忠雄氏の事業〕　一記者　61
「噂」〔ダンサと教師心中後追ひ事件〕　65
彼女のタヨリ　66
人事往来　66
いちばんの高収入のダンサ〔日本のダンス界で最も収入の多いダンサは……誰？〕　67
〔ダンスにも器用さ　杉山昌三久は、なぜモテル　68〕
秋のダンス映画　香西忠雄　69
〔時代劇の寵児　阪東好太郎が社交ダンス同好会を組織す　69〕

……**時事・ニュース**……

オープン・クイツク競技、小山氏優勝　4
全関西自由型舞踏競技予告　16
〔本社主催〕全京都選抜競演大会評
「悪口御免」　羽室太郎　14
「楽屋落ちに非ず」〔楽屋落ちでない批評〕　上田敬三　15
武内忠雄氏のシヨウダンス独演会　62

〔M・Dが一年ぶりに日米でデモ　63〕
〔ダンスにも器用さ　杉山昌三九は、なぜモテル　69〕
ボール・ル〔ー〕ム月報　70
京都ダンス界だより〔京・都・舞・踏・界〕　長門健三　71
東西選抜競演大会予告　72
タンゴ・アマチユア競技会予告　72
ダンス渡来五十年で賑ふ〔社交ダンス渡来五十年記念　東西各ホールの催物で賑ふ〕　49
警視庁の教師試験問題　47

〔グラフ
舞踏手、優待規定（東山ダンス・ホール）　2
本社主催全京都選抜競演大会　17
名門の流れ　夏水重子さん（桂）　18
関東組の異彩　岸のぶ子さん（桂）　19
ヅカの花形　馬島好子さん（西宮）　20
パートナ第一陣　小寶たか子さん（桂）　21
隠れた名パートナ　坪田道子さん（東山）　22
躍進！ベスト3　栗山あきのさん（タイガー）　23
気持の床しさ　浅香桂子さん（桂）　24
都会双曲線！『巨人街』と『佳人街』好対照　25
京都舞踏会の重鎮を揃えて　カツラ教授部の堅陣　片木茂氏・森正夫氏　26
舞踏献身　平岡英夫氏（東山）　27
斯界に珍しい人　佐藤芳男氏（東山）　28
認められた逸材　澤井正明氏（京阪）　29
隈田とし子さん（タイガー）　30
名と実　忙しい収獲〔ママ〕の秋！　美鈴愛子さん（タイガー）　31
巴里ムーランルージユ楽員「ニツポン・サヨナラ」演奏会　32
ジユセフエバンス・エンド ヒズ・ブルーメロデイアンス（東山）　33
ナカザワ・エンド ヒズ・カツラ・ボーイス（桂）　34
S・B・M カツラ・タンゴ・アツ〔ン か〕サンブル（桂）　35
N・D・Hタンゴ ジヤズバンド（西宮）　36
東山からキングへ　ヨウコ・タカチホ エンド・ハー・ジヤズバンド　37
青柳玉枝さん（鴨涯）　38

創刊5周年を迎えて刊行された号である。巻頭には「晩我楼主人」こと八木の回顧記事がある。以下に翻刻する。

翻刻　創刊、五周年を迎ふ　晩我楼主人

昭和五年の夏、僕が、夕刊大阪新聞の編輯部にゐた頃だつた――大阪のアマチユア舞踏愛好家、梅本清三郎氏と道頓堀松竹座前の「ライオン」で紅茶をスヽリながら舞踏論に花を咲かせてゐるうちに

「僕たち舞踏研究家の意見や研究を発表して大いに討論すべき、ダンスの同人雑誌をつくりたいものだが……」

と、いふやうな話が出たのが動機で、その名も「ダンス・フアン」と梅本氏が提案したものであつた。

で、僕は新聞社にあつて忙しい編輯業務に、たづさはる傍ら、趣味、道楽といつたつもりで、兎も角、創刊号を出したのが、その年の十月、営業の方は近藤庫太郎君とか小幡清彦君といつた教師連中が手伝つてくれてゐた。

片手間の仕事、と思つてゐたのが、第二号は菊版六十八頁からのものとなつて、早くも此頃から財政難が僕を襲つた。

×

昭和八年夏、新聞社の勤めの方をやめて、雑誌発行とダンス事業を専念にやつて今日まで、一ヶ月として、雑誌経営の困難からは救はれた事がない。

でも、世にいはゆる三号雑誌の悲哀だけは負〔ママ〕逸れたども……

事実、此雑誌は今日まで随分と金を喰つてゐる、僕のポケツトマネーを毎月漾つてゆくばかりか、僕の友人、知己の方々の援護も少からずあつた。

×

発刊の動機が教師団の機関誌的のものでは全然なく、又た一、二ダンスホールの宣伝用の御用雑誌でも絶対になかつた、純正公平なる立場と色彩を発揮して来たものだけに経済難が伴ふが、然し昔から今日を通じて、全日本のダンス界にタツタ一つの誇るべき、無色透明の公共雑誌であつたことを、声を大にして叫び得る。

×

本誌発刊の動機たる、研究雑誌の意義と面目を、どこまでも発揮し護つて、僕等は「舞踏日本の建設」のために筆剣を揮つて戦つてゆくであらう。

ダンス・フアン誌は、ダンス界のメツセンヂヤー晩我楼が、経営編輯を仰せつかつてゐるだけで持主はダンス界の悉くの人々のものであれねばならぬ。

×

想へば五年間に亘る雑誌継続事業、随分とシンドかつたです。

元来が文人であり、武人育ちであるこの晩我楼には、いはゆる雑誌屋、新聞屋的な懸引が出来ないのが今だになさけない、だけれども貧乏よ、難儀よ、もういゝ加減に僕たちから去つて貰ひたいんだ

×

創刊五周年を迎へる巻頭の言葉が、オカシな物になつてしまつたが、嘘、詐はり、見栄張りなんかは並べてはない筈です。

然し、読者諸氏よ、安心して下さい、晩我楼主人眼の玉の黒い間は此雑誌は潰しはしません

ですから、宜しく末永く、御愛読、御声援を願ひたいのです、と斯くなん申す、（終）

また、創刊から５年が経過して、ダンスホールをとりまく状況も変化している。創刊のころと比較するために、広告について紹介しておく。表紙の裏は桂会館で、２ページには東山ダンス・ホールのものがあり、ダンサーを募集するため待遇の説明をしている。東山会館は比較的経営が安定していたホールであり、その条件から他のホールの状況を推察する手がかりになる。たとえば、ホール側が半分を負担する積立貯金の制度が書かれているということは、他のホールではそういう仕組みが整っていなかった可能性があると読むこ

とができるし、また、罰券を徴収しないという項目が用意されているということからは、そういった慣行が他のホールにはあったというふうに読める。

舞踏手、優待規定

左の優待方法を掲げ、甚だ不満足ではありますが当社の微意を表明致します。

一、毎日の夕食一飯は粗飯なるも、無料にて支給す

一、二十五日間、精勤者にして月収三十円に満たざる場合は其の不足額を会社に於て補給す

一、半月計算に於て其の期間欠席、遅刻、早引等のなき出勤者に対しては夜券三十枚を賞与す

一、半月計算に於て優秀者に対しては左記の通り夜券を賞与す

第一席　壹百枚
第二席　七十枚
第三席　五十枚
第四席　三十枚
第五席　二十枚

一、半月計算に於て各自収得金の百分の五を郵便貯金し通帳は会社に於て保管し退社又は事情やむを得ざる場合返還す
会社は別に各自の貯金額に相当する額を別途に之を積立て退社の節之を贈呈す
（但し除名せられたる者に対しては之を支給せず）

一、遅刻、欠席、罰券等は一切之を徴収せず　──以上──

広告の説明をつづける。10ページには蝶矢ドライクリーニングの長尾商会（京都南禅寺下河原町）、39ページにダン・レコード店（神戸市三宮町）、40ページに西宮ダンスホール、44ページにダンスタイガー教授部、55ページにダイヤ倶楽部とつづく。57ページにはダンス・フアン社の自社広告があるが、これは「風水害御見舞を謝す　昭和九年十月」とあり、室戸台風の被害に関するものと推定される。58ページは島田靴店（神戸市下山手通）で、この時期には関西の多くのホールの関係者にとってなくてはならない店だったことがわかる。「拾数ヶ年間、踊り馴れた体験に鑑み、島田店主自ら苦心精製せるダンス靴は、必ず「島田の靴に限る」との皆様の裏書と称讃を得てゐます」との謳い文句あり、玉置眞吉の写真が添えられている。59ページはダンス・バッジの村井徽章製作所（京都市山科御陵）で、

ダンス愛好者たちのあいだに、自分の所属団体や、あるいは名前のイニシャルを刻んだバッヂをつける習慣があったとみられる。63ページは蓄音機とレコード、ダンス用品一式、ワイシャツなどを取り扱うホリ商会（堀増太郎）で、店は杭瀬にあり、ダンス研究団体の事務所もおかれていたようだ。65ページはダイヤ倶楽部の主任教師・青柳武男の個人広告、66ページはダンス・パレス教授部のものである。70ページは花隈ダンス・ホール、71ページは木屋町舞踏研究所（京都市木屋町仏光寺）。奥付のページはダンスフアン社主催の競技会の社告があり、裏表紙とのあいだに西宮ダンスホールの招待券が挟み込まれている。当時のダンス雑誌には、こういったかたちで無料券がつけられている号があり、雑誌を手にした読者が踊りに行くことを促す効果をねらったものと考えられる。

裏表紙の内側は公（いさお）ダンスで、この時期には生駒山に本館を建設し、レッスンやパーティを開催していた。『ダンスフアン』誌で健筆をふるう齋藤人兆が主任となって指導にあたっている。裏表紙は木下楽器店（大阪千日前）で、楽器の「交換買入」や「製作輸入」も手掛けていた事がわかる。

創刊のころの広告が、一般企業や飲食店などを多くふくんでいたのに対し、この号ではダンスホールや教授所、それらの施設と関係がある出入り業者が目立つ。広告主としては安定しているものの、集金の範囲が限定的であり、雑誌経営の点では収入を増やすことができなかった可能性を示唆する。

第５巻第９号（東西競演大会記念号・五周年記念号第二輯）　1934年12月（1934年11月30日印刷／12月１日発行）

「もくぢ」

表紙の人　青木君子さん（東山）
……**研究・評論**……
巻頭言「ムーア氏を迎ふ」〔シー・ムーア氏の英国よりの帰朝を迎う〕　晩我楼主人　3
断寸片〔ダンスフアン〕　八木亮輔　4
日本の音楽、舞踏を確立せよ〔日本の社交舞踏と舞踏音楽を確立せよ〕
〔帝国舞踏教師協会会長・京都プロフエシヨナル・ダンサーズ名誉会員〕　玉置眞吉　6
カツツインの全貌〔加藤教雄・濱井弘両氏の説を正す〕　羽室太郎　8
京プロ、帝協の提携〔帝国舞踏教師協会・京都プロフェッショナル・ダンサーズ提携に就て〕
玉置眞吉・武内忠雄　11
ダンス音楽のリズムとステツプ　金森義雄　14
十一、十二月のレコード評〔ダンス・レコード批評　十一月と十二月の新版〔盤 カ〕〕
玉置眞吉　58
タンゴ風のマツシシ　玉置眞吉　60
中等科講座「ウオルツ」〔社交ダンス中等科講座（５）〕　本社教授部　62

ランバの基礎的運動　岡本邦嗣　65
……**随筆・小品集**……
シヨウ・ダンサに贈る〔コント　八木亮輔氏への手紙〕　武内忠雄　12
ダンスホールに関する座談会（二）　本社記者　18
〔出席の人々　西宮ダンスホール　マスター　安原疏之助、支配人　野々山正夫、三木西宮署長、
加藤医学博士、本社　八木亮輔、大正日日　村上芳雄、大阪日日　岩佐忠朝、
ダンス時代　下村澪子、ガーデン　田中紫軒、キング　加茂仁松、パレス　岡本邦嗣、
タイガー　中濱喜久子、尼崎　臙脂しのぶ〕
東京ダンス界だより〔東京舞踏会〕　66
安原氏邸新築披露祝宴〔長夜の祝宴　西宮ホール安原マスター〕　本社員記　67
関西ホールだより〔モダンガイド〕　71
人事往来　72
編輯後記〔雑記〕　72
……**時事・ニユース**……
〔漫談洋行の大辻司郎氏と浅路欣也さん、京の街で邂逅　7〕
桂のスペシヤル・シヨウ評〔桂会館で見た「スペツシヤル・ダンス」〕　上田敬三　21
サカロフ夫妻を見る〔朝日会館に於けるサカロフを見て〕　羽室太郎　22
武内氏のシヨウダンス独演会評〔武内忠雄氏の独演会を観る〕　玉置眞吉　23
男の迫力　〔関西中央新聞記者〕　戸波恒郎　23
武内氏のタンゴを見〔観〕る　金森義雄　24
〔本社主催〕東西選抜競演大会評
京阪ホールの巻、パレスの巻、ソシヤル、桂、西宮ホール〔京都の部・阪神国道〕　武内忠雄　49
〔パレスに於ける東西選抜競演大会評　玉置眞吉　54〕
全日本タンゴ競技会〔全日本アマチユアタンゴ競技大会〕　本社記者　55
タンゴ競技会評〔競技批評〕　武内忠雄　56
〔タンゴ競技会〕音楽審査雑感　金森忠雄　57
京阪のオープン・スロー競技会評〔スロー・フオツクス・トロツト オープン競技会評〕
武内忠雄　61
ムーア氏の帰朝〔英国のダンス修業から！〕　八木亮輔　68
〔グラフ
舞踏手、優待規定（東山ダンス・ホール）　2
グランド・シヨウ・ダンス　武内忠雄氏独演会　25
シヨウ・ダンスばやり　ダンス・タイガー教授部のシヨウ・ダンス・デモンストレイシヨン　26
スパニツシユ・タンゴを踊る　綿井市藏氏・美鈴愛子嬢　27
のんきなパヽさんぶり　或る日の梅澤清一氏　28
ジヨセフ・エバンス氏（東山）　29
バンドネオンは日本に於ける唯一の演奏者　ダンス・パレスのヴヰツー デスラス氏　30
タイガー新編成のダンス・オーケストラ　安井エンド加藤の名コンビ　31
オール・ダンス・フアン　諸彦にうつたふ　キング・ホール専属少女バンド　33
松竹下賀茂撮影所からダンス・タイガーへ　旭光子さん　34
タイガーの至宝　伏見美子さん　35
健康的な印象　丘弘子さん（ニシノミヤ）　36
東山ホールの常勝ナンバ・ワン　浅路欣也さん　37

嘗ては二万円　脚の人気者！　尼崎からタイガーへ転じた宇根政子さん　38
純粋の京娘　京人形のあどけなさを持つ　越後末子さん（東山）　39
懸賞！　課題「此の中の五人の娘さんの姓名を知らせて下さい……」　40
妙齢十七、偉なる哉　タイガーで第二位を固守する隈田とし子さん　41
ダンス・タイガーの輝く三スター　栗山あきのさん・前田幸子さん・前田靜枝さん　42
茶華道の造詣　けふはつゝましやかに和服姿で　前田靜枝さん（タイガー）　43
技術上達第一主義にピツチを挙げてゆく葉山鮎子さん（タイガー）　44
陽光を浴びて　馬島好子さん・吉原美代子さん（ニシノミヤ）　45
清新　浦川ヨシ子・岡本末子・川崎美子・三浦智英子・橋本アキ子（キング）　46
名実共に貫録を発揮　新聞、雑誌から激賞された美鈴愛子さん（タイガー）　47
関東関西選抜競演大会　全日本アマチユアタンゴ競技大会　48
東西競演大会 タンゴ競技大会 演者及役員　48

翻刻　バンドネオンは日本に於ける唯一の演奏者　ダンス・パレスのヴヰツー デスラス氏

本格式のタンゴ・バンドは矢張りバンドネオンでなければならない、

ワルソー大学音楽部出身のデスラス氏は、一九三三年九月、巴里から来朝、東都フロリダに在つて初めて我国にバンドネオンを伝へ今日、尚ほ、日本のダンス界へ〔ママ〕於ける唯一のバンドネオン演奏者としてパレスのタンゴバンドに加はり人気を博してゐる

この号は「五周年記念号第二輯」と銘打たれている。またこの号から表紙のタイトルの上に「ダンス雑誌の始祖」という表記がくわえられた。

第５巻第10号（クリスマス〔臨時特輯〕号）　1934年12月（1934年12月18日印刷／12月19日発行）

「もくぢ」

表紙の人　隈田とし子さん（タイガー）
楽しいX〔クリス〕マスパーテイ　三太九郎主人　5
競技選手に与ふ〔(上)〕(宝塚競技会)　審査員　玉置眞吉　6
宝塚会館のオープン競技会記〔全日本オープンワルツ及びフオクストロツト競技会評〕　武内忠雄　8
横浜の競技会成績〔横浜に於ける全日本オープン競技大会雑感〕　〔大会審査委員長　JBPPF－Y－理事長〕　高橋利併　9
桂会館の京プロオープン競技会〔クイックステップ競技会〕　〔審査顧問〕　武内忠雄　10
教師資格論〔(其の三)〕　〔京プロ常任理事〕　佐藤芳男　11
〔ピエル氏等の〕キユウバンラムバ　上田敬三　12
シヨウダンスラムバ〔の踊り方〕　名和双葉　13
ムーア氏〔英国より〕帰朝座談会〔印象記〕　武内忠雄(記)　14
〔司会者　八木亮輔、来会者　玉置眞吉、岡本邦嗣、羽室太郎、光田悦之扶、井上一男、

野村継德、腰高清一郎、木野清治、武内忠雄　主催　インピリヤル・クラブ〕
我等の南紀行〔和歌山舞踏人の招聘をうけて　われらの南紀行〕　武内忠雄(記)27
〔帝都舞踏場三周年記念　27〕
Seasons Slow Fox Trot〔by Victor Silvester〕　羽室太郎(訳)28
中等科講座（クイツクステツプ）〔社交ダンス中等科講座（６）〕　本社教授部　30
日本フオクストロツト　玉置眞吉　31
英国各舞踏場演奏速度〔一覧〕　上田敬三(編)32
〔オープン自由型舞踏競技会評〕　武内忠雄　32
ダンスホール〔に関する〕座談会〔第三回 ── 終 ──〕　速記者　33
〔出席の人々　西宮ダンスホール　マスター　安原疏之助、支配人　野々山正夫、三木西宮署長、加藤医学博士、本社　八木亮輔、大正日日　村上芳雄、大阪日日　岩佐忠朝、ダンス時代　下村澪子、ガーデン　田中紫軒、キング　加茂仁松、パレス　岡本邦嗣、タイガー　中濱喜久子、尼崎　臙脂しのぶ〕
口絵に出た人々〔（西宮ダンスホール）　前田富美子、瀧野きみ子、瀧野珠子、丘弘子、馬島好子、浅野久子、浅野和子、吉原美代子、橋口比那江、藤枝京子、松本時乃、幾島きぬ子、池田貞子、山口みさを、西村富子〕　36
ダンスホールはスポーツ処〔ダンスホールはスポーツ所だ〕　村松梢風(談)36
ダンス新聞　38
編輯雑記　八木亮輔〔八木晩我楼〕　40
国華ホール値下〔国華の値下断行〕　9
川崎のリレーダンス　12
純英国風タンゴ・オープン競技会予告　25
インチキダンス競技会　36
ボストンワルツ公演　30
ムーア氏座談会〔甲子園ホテルに於けるムーア氏帰朝歓迎座談会に出席の人々〕　17
横浜合同公演会〔横浜舞踏研究所主催　鶴見花月園ダンスホール〕　17
山田三平氏〔関東、関西のダンスホール視察に来た満洲舞踏界の元老〕　17
〔帝都の三羽烏の一人〕青木進氏　18
〔オープンクイツクステツプ競技に優勝した〕府見雄氏〔（京阪）〕　19
〔スパニツシユ タンゴに新境地を発見した〕光田悦之扶氏〔（西宮）〕　20
〔調子をあげて来た〕宇根政子〔さん（タイガー）〕　21
〔風を切つて走る オートバイのモダン娘〕小島やす子〔さん（西宮）〕　22
〔明眸！〕甲斐吟子〔さん（キング）〕　23
〔MERRY X'MAS〕石田伊男次氏〔（西宮　サービス係長）〕　24
〔キングダンスホールの参謀本部と教授部新陣容　25〕
〔ダンスタイガー本年のヒット！ 教授部とダンサ競演　26〕
〔阪東好太郎等の一統が〕旭光子〔後援にタイガーへ〕　37
〔阪神間のダンス同好者が集まり〕宇都宮英氏〔の後援会を組織〕　38

翻刻　編輯雑記　八木晩我楼

日本舞踏教師協会の会員、山市太平氏が協会と大阪の国際舞踏教授聯盟からの舞踏使節と名乗つて渡欧してから一躍有名になり、シルヴエスタスクールに学んだといふ英国風舞踏の真髄を十二月上半

月を東京で、下半月を京都、大阪　神戸の各ホールで発表した

×　　×

十五日以降関西公演を控へての前夜、タンゴのトレイニングを少々覗かせて貰つたが、我々がムーア氏から教へを受けた英国のタンゴとは似ても似つかぬものだ、と僕は直感した

×　　×

我々のムーア氏は、シルヴエスタ夫妻から余蘊なきまで徹底的に個人教授を受けた人だが、ムーア氏のタンゴと山市氏のタンゴがあれ程、解釈と表現が違ふなんて？　僕は山市氏が本格的に踊たタンゴを今晩のタイガー公演で見せて貰つて、改めて批評させて貰ませう

×　　×

〔中略〕

×　　×

日本舞踏教師協会が発行する機会〔ママ〕雑誌「ザ　モダン　ダンス」は大阪の国際舞踏教授聯盟との合同機関誌だのに、国際が又別に最近「舞踏公論」を発行したのは、関東関西お手切の証拠だと、東西ダンス界に噂話が持上つてゐるが…

僕は「サア、どうかね」と沸え切らない返事をしてゐる

×　　×

十二月十八日夕、ダンスパレスで、ムーア氏帰朝歓迎の純英国風舞踏のデモンストレイシヨンが行はれる、出演者は我国に於ける理論家としてデモンストレイタとして併せ盛名を馳せた羽室太郎、武内忠雄、岡本邦嗣の三氏で、ムーア氏は此三人に特に英国風舞踏の真髄を真剣に伝へてくれてゐるから、三氏の共演によつて日本ダンス界のタンゴ踏風も急変を来すであらう

×　　×

元来ならばムーア氏が自身で英国風技術の発表をなさる筈であるが氏は大会社の重要の椅子にある人だし、舞踏教授が本業でないからダンスホールに於けるデモンストレイシヨンは差控え、自重してゐられるのであらうが、どうかして氏の妙技を公開して戴きたいものである（十二月、十五日記）

第６巻第１号（新春号）　1935年１月（1935年１月14日印刷／１月15日発行）

「もくぢ」

表紙の人　浅路欣也さん（東山）		
山市太平氏のデモ批評〔山市太平氏の所謂英国風舞踏発表を見て〕	羽室太郎	4
34年から35年へ	武内忠雄	4
期待に外れた山市氏のデモ〔想像と違つてゐて僕達を悲観させた〕	小山賢之助	5
東京舞踏場組合功罪史	茅　浦人	6
〔重大〕転換期に直面せる舞踏日本	武内忠雄	8
金森博士を診断す（人物評記１）	玉置眞吉	11
音楽的に踊るといふこと	金森義雄	15
随筆「あの事、この事」	武内忠雄	15
１月のダンスレコード評	玉置眞吉	33
社交ダンス「大学科講座」Slow Foxtrot	本社教授部	34
競技選手に与ふ（No.2）〔中〕	玉置審査員	36
京プロのデモ観記	加藤教雄	39
シヨウ・ダンス談合	名和双葉・武内忠雄	43

ムーア氏帰朝歓迎、英国風舞踏発表の夕
タンゴのミラクル　〔関西中央新聞記者〕　戸波恒郎　81
その夜の感激　植田三郎　82
踏界夜話　金森義雄　83
審査員不出場の「声明書」　加藤教雄　89
選抜シヨウ・ダンス大会　晩我楼　19
タンゴ・ヴエリエイシヨン　岡本邦嗣　92
「噂話」　94
私の領分〔僕の領分〕　八木晩我楼　96
口絵の人〔いずれも西宮〕
　小島やす子　17
　鹿島きみえ　19
　天野蘭子
　澤田千代子　23
　若山照美　25
　佐々木靜子　27
　大西菅子　20
　金丸絹江　31
グラフの諸氏
　小山賢之助　57
　龜井孝祐　58
　大鹿實　59
　青柳武夫　60
　上野洋太郎　61
　中濱喜久子　62
　美鈴愛子　63
　野田操子　64
　宇根政子　65
　タイガーバンド　66
　梅澤清一　67
　浦邊葉子　68
　樋口君江　69
　田中綾子　70
　中村溪子　71
　小池四郎　72
　阪東好太郎　73
　芝辻賢三　74
　山本二郎　75
　栗山あきの　76
　湊智佐子　70
　東山ジヤズバ〔ン〕ド　78～79
　ムーア氏歓迎会　80

第6巻第2号（春季特輯号） 1935年3月（1935年2月28日印刷／3月1日発行）

「もくぢ」

表紙の人 宇根政子さん（タイガー）
断寸片〔ダンスフアン〕 八木亮輔 6
山市太平氏演技評〔重大転換期に直面せる舞踏日本 山市太平氏の帰朝技術発表を見て（下）〕
〔京都府公認舞踏教師組合長〕 武内忠雄 8
舞踏と血液型 〔医学博士〕金森義雄 12
タイミングに就て 〔奈良〕 飯田 憑 14
日本音楽と日本舞踏大会（関西中央紙評）〔琴、尺八演奏で踊る 日本音楽と日本舞踏の夕〕
16
〔東京舞踏教授所組合長就任御挨拶 玉置眞吉 31〕
タンゴの都から〔加藤兵次郎氏夫妻よりの通信〕 加藤兵次郎 33
タンゴ入門集（1）〔ハンペイヂセクシヨン ダンス入門常識集（1）〕 原 潔 33
英国風舞踏の真髄〔No.1〕タンゴ篇（1） 〔京都府公認舞踏教師組合長〕 武内忠雄 34
〔技能精錬の学徒 光田悦之扶氏の事 39〕
ダンス趣味〔の〕映画抄 都並恒夫 40
競技選手に与ふ（3）〔(下)〕 玉置眞吉 42
シヨーテイーシユの研究〔京プロ・常任理事〕 上田敬三 44
新橋、帝都、日米バンドメンバー 11、45、47
〔新橋ホール新編成バンド 11〕
〔帝都タンゴバンド 13〕
〔帝都舞踏場新編成バンド 桂の中澤君の一党 45〕
〔尼崎ホール売買事件に絡まる どんでん返し事件の真相 蛇成素人（記） 46〕
〔日米バンドの新らしい顔ぶれ 47〕
ダンスレコード二月新版〔ママ〕〔ダンス・レコード評〕 玉置眞吉 49
平易なるタンゴ変型〔平易なタンゴの変型〕 シルヴエスタ・羽室太郎(訳)50
舞踏日本建設理想論〔(上)〕 京都 昭元濶彌 53
〔横浜に組合 53〕
ダンス用語の定型 玉置眞吉 54
英国〔の〕巨匠断片 八木亮輔 56
〔鈴蘭台ホールいよいよ〔くの字点〕開業 57〕
〔東北義捐〕選抜演技大会評（関西中央〔新聞〕紙評） 59
舞踏通信 60
〔ダンサ最近成績一覧表 61〕
踏界夜話 金森義雄 62
人事往来 編輯子 63
僕の領分 八木 生 64
ヴアリエイシユ〔ママ〕ン百集（1）
タンゴ篇（一〇）〔No.1～10〕 武内忠雄 18
「噂話」 28
フウオト・ニユス 17～32
1 日本舞踏の夕 〔17〕

2　小林春子〔さんのターキーぶり　18〕
3　〔「選手」の心がけ〕隈田とし子〔さん（タイガー）　19〕
4　〔依然京洛のクヰン〕浅路欣也〔さん（東山）　20〕
5　〔タイガへ入つた〕湊智佐子〔さん　21〕
6　〔パレスの麗人〕栗田幸代〔さん　22〕
7　〔懐しの国道へ返り咲き〕中島貴美子〔さん（タイガー）　23〕
8　〔「ボレロ」で人気獲得〕中濱喜久子〔さん（タイガー）　24〕
9　〔尼崎から西宮へ〕坂本種一〔氏〕　25〕
10　〔一九三五年度アマタ選手権獲得者〕櫻井道雄〔氏（神戸）　亀山房子嬢（花隈）　26〕
11　〔新編成された〕西宮ホール〔野球団　27〕
12　〔２月４日節分祭の夜〕尼崎ホール〔ダンサの仮装　28〕
13　〔性格を物語る〕田中綾子〔さん（キヤピトル）　29〕
14　〔新人を御紹介します〕山縣千里〔さん（西宮）　30〕
15　〔新人を御紹介します〕久保百合子〔さん（西宮）　31〕
16　中原恒男〔氏の披露舞踏会　尼崎ホールの顧問教師として入る　32〕
〔株式会社桂会館入社の御挨拶　経営代表者　武内忠雄　2〕
〔『先生はナンバ・ワン』教育家出身のダンサ　幾井鶴江さん（ガーデン）　3〕
〔振袖姿もあでやかに　日本舞踏発表大会の日　美鈴愛子さん（タイガー）　5〕

この号には、蛇成素人（ジャーナリストと読むのだろう）という人物によって「News of News 尼崎ホール売買事件に絡まる どんでん返し事件の真相　中屋敷氏対安原氏の一騎打　中に女策士も一枚交はつて……」という記事がある。尼崎ダンスホールの長屋敷岩夫と、西宮ダンスホールの安原疏之助との対立と、『ダンスフアン』誌にとってはライバルである『ダンス時代』誌の主幹・下村澪子（記事中では「下浦澪子」と変名がつかわれている）の策動などが、かなりくわしく書かれている。ただ、どこまでが事実であるのか不明な点も多く、翻刻は控える。だが、この時期に尼崎ダンスホールと西宮ダンスホールとをそれぞれ拠点にした人びとの暗闘があったことはたしかなようだ。けっきょく1935（昭和10）年のはじめに、西宮の安原が尼崎ホールの買収に成功し、ふたつのホールは「姉妹ホール」になった。なお、安原疏之助については第６巻第４号に本人の寄稿があって、編輯者が添えた説明のなかに、京都の素封家の出身でダンス界にかかわる前には精道村の村議会議員だったとも記載されている。しかし、1936（昭和11）年の１月、交通事故に遭い他界した。

第６巻第３号（発展・普及号）　1935年５月（1935年４月30日印刷／５月１日発行）

「もくぢ」

表紙の人　桂宮子さん（パレス）・加島きみえさん（西宮）

〔瑞典王家大舞踏会 1〕
〔湊智佐子さん（タイガー） 3〕
断寸片〔ダンスフアン〕 八木亮輔 4
春宵踏話 一記者 5
光田、松風のコンチネンタル〔ダンス映画「コンチネンタル」の演出
光田悦之扶氏（尼崎）、松風浪子嬢（西宮）のコンチネンタル〕 7
ラムバ時代来らん 晩我楼主人 9
舞踏日本への道 本誌記者 10
ダンサ成績表 11
〔スター競演陣 11〕
ダンサを侮辱する〔甚だしき〕ヨタ記事〔(一)〕 志村　健 12
〔ハンペイヂセクシヨン〕
〔ますます〔くの字点〕〕殖え〔江〕る社交〔ダンス〕クラブ（東京） 南郷三郎 13
今日の話題 戸波恒郎 13
踏界夜話（2） 〔本社顧問〕金森義雄 14
〔『CBMとカッツイン問題』〕再び濱井氏に与ふ 羽室太郎 17
〔章魚庵漫録〕教師団体〔の〕盛衰 京都　上田敬三 19
〔社交〕ダンス大学科講座〔(2)〕（スロー〔フオクストロツト〕篇〔(下)〕） 本社教授部 20
タイミングに就て（2）〔(下)〕 奈良　飯田　憑 22
踏界片々 武内忠雄 24
ジヤズ談義〔(一)〕 一記者 25
シヨウダンスを説く 名和双葉 26
〔映画の『ラムバ』を市村氏が実演 27〕
レコード評（三、四月）〔三月と四月の部〕 玉置眞吉 28
〔関東社交舞踏審査聯盟　東京部員の展覧舞踏会 29〕
〔ムーア氏の純英国風舞踏　その発表会を桂会館で観る 帝国舞踏教師会会長　玉置眞吉 30
〔浦和市〔ママ〕に新開場の『シヤンクレール』 31〕
新聞の舞踏批評〔権威ある大阪の二大日刊紙がムーア氏等の技術発表を特筆大書す〕
戸波恒郎・岩佐忠朝 32
〔待望、実現の日は来た！　純英国風舞踏発表大会 33〕
〔東山ダンスホール音楽部陣容 34〕
〔花隈ダンスホール　オーケストラ 35〕
ラムバ・ヴアリエイシユン拾種〔ヴアリエイシユン百集（二）ラムバ篇〕 武内忠雄 36
〔招聘されてパレスへ入つた　平岡英夫氏 40〕
〔桂会館教授部　京都の重鎮、森正夫氏、新鋭、大久保忠三氏 41〕
〔ドレスの考案もすつかり板について来た　隈田登志子さん（タイガー） 42〕
〔二人シズエさん　仲よしぶり　石田靜江さん（パレス）前田靜枝さん（タイガー） 43〕
〔双鏡　山口みさをさん（妹）　山口あさをさん（姉）（西宮） 44〕
〔選定された人々『ミス アマガサキ』藤田和子・花岡三枝・金木靜枝・内田雅子・飛鳥明子 45〕
オールドボーイス競技会〔六拾八歳の老人も参加して『おッちやん』連の競技会〕 玉置眞吉 46
〔「公認」を目指して大阪舞踏界のために精進する　踏交社　上野洋太郎氏 47〕
「噂話」〔「彼女の噂」〕 一記者 47

〔ベビー・スター　藤田房江さん（西宮）　48〕
〔「東のチエリー西の宇根」……も昔の言葉、だが国道を訪れるものは先ず踊る 宇根政子さん　49〕
〔タイガー音頭　ダンスタイガー踊の春　50〕
東プロ舞踏家協会創立挨拶〔二つの教師団体創立さる〕　52
人事往来　53
明朗自由型ブルース競技会予告　21
〔純英国風舞踏発表大会にダンス界の最高新記録　56〕

この号には、C. ムーアの渡英、帰国の経緯が書かれている。

翻刻　春宵踏話　一記者

◇

関東、関西一流の舞踏教師連は殆んど悉く、シー・ムーア氏のコーチを受けた。

ムーア氏は神戸のダンロツプ極東ゴム株式会社の重役で、人事課長と用度課長を兼ねて居られ多忙な身である傍ら趣味としてダンスを研究し、阪神間に数百名の門下生を養成して来られた

ムーア氏が昨年秋、英国から帰朝せられるや先づ玉置眞吉、八木亮輔、武内忠雄、岡本邦嗣、羽室太郎、小山賢之助、植田三郎、平岡英夫、光田悦之扶氏がコーチを受けたのに対し一部では、プロフエシヨナルがアマチユアに教へを受けた驚異的ニユースだと囁いてゐた、がムーア氏を単なる一アマチユアと軽く見てゐた人には、驚異的かも知れぬが、ムーア氏の予ねてからの造詣を知つてゐた者には敬服以外の何ものでもない

◇

ムーア氏は渡英以前、既にシルヴエスタ氏の「セオリ・エンド・テクニーク」を自家掌中のものとせる程、勉強してゐられた、実技に於ても、本社主催の「評論家の演技大会」に羽室、八木、岡本、大鹿の諸氏と技を競ふて一歩も譲らなかつた。たゞダンス教授を本業としてゐないだけの人であつて、理論に実技に二、三年前から我々は教へを受くる処、多々あつたのである

◇

その人が、英語の自信と財力と社会的地位と、総てに於てお誂え〔江〕向きの条件を全部備へて渡英し、三年来計画してゐた渡英に対する細心の注意と、我等の想像も及ばぬ努力と苦心とを以て、英国風舞踏の真髄を握つて帰つて来られたものである。

◇

現在の日本の舞踏界の何人と雖も、十年計画と数万円の費用を以てしてもそれだけ充分なものは到底持つて帰られない事を断言すると玉置眞吉氏等は讃嘆してゐた

◇

ムーア氏はシルヴエスタ夫妻に個人教授を受ける前、既に一ヶ月間シ氏の推薦したエナ・バートレ嬢についてバーミングハムに於て習得し、後にロンドンに渡り、ムーア氏の宿泊せる英国第一の大ホテルからシルヴエスタ夫妻を招聘し、その翌日からシ氏の個人教授室で毎日一時間づゝ二十余日のレツスンを経て、「もうお教へする事はありません」とシ氏夫妻から極印付きで帰国したものである

◇

船が日本へ急ぐ四十日間程の船中生活も、ムーア氏には、毎日タンゴのプロミナード、スローのCBM表現法などで急しかつた、

日本のダンス界を正しく導く、舞踏日本の建設、世界的選手の出現を望んで努力貢献する犠牲的な

ムーア氏の清い大きい気持は総て報はれて舞踏日本に黎明のときは訪れた

◇

ムーア氏が英国で舞踏修業に費やされた金額は短期間だつたが約一万五千円と聞いてゐる。

（下図写真〔略〕）── シルヴエスタ氏がムーア氏に渡したレツスン料の「受取証」である。日本の教師諸君のため参考に掲げた次第……。──写真は実物大──

第６巻第４号（英国風舞踏発揚号）　1935年７月（1935年７月14日印刷／７月15日発行）

「もくじ」

表紙の人　中村溪子さん（東山）

断寸片〔ダンスフアン〕　八木亮輔　9

満洲国舞踏行脚〔しんこうこく・の・だんす・たびだより〕　玉置眞吉　10

英国風舞踏の真髄〔（No.2）シー・ムーア氏の衣鉢を伝ふ〕　羽室太郎　13

〔今日の話題　ラムゼイ氏の名訳出版さる〕「加藤、濱井氏のお手柄」　羽室太郎　15

横浜の舞踏界今昔物語〔ハマの舞踏界今昔物語〕〔横浜社交舞踏教師会・理事長〕　高橋利併　16

あめのうづめの命とベーカー嬢〔天ノ宇受売ノ命とベーカー嬢〕　〔京都〕　上田敬三　17

シヨウダンス座談会　名和双葉　18

〔出席者　舞踊批評家　永田龍男氏、舞踊批評家　江口博氏、大衆作家　国枝史郎氏　仝夫人、舞踏教師　小谷野匡史氏、丸之内松竹劇場舞台照明研究家　久本十美二氏、名和双葉、（司会）川名猛、白幡一磨、桂かすみ、佐藤彌生、前田十司子、（速記）豊島誠二〕

〔帝都の競演　BSC の復活　19〕

東京でムーア氏の踊を見る〔C・ムーア氏の踏風に接して〕　日本社交舞踏家協会理事長　高松太郎　20

タンゴ競技会批評〔純英国風タンゴオープン選手権大会評〕　羽室太郎　21

音楽に関する審査雑感〔音楽審査を了りて〕〔音楽に関する審査員〕　金森義雄　22

競技用レコード「ポエマ」の解説〔競技に用ひた『ポエマ』と踊りの解剖〕　金森義雄　22

競技会寸評〔長短交々〕　ムーア氏談　23

タンゴ競技会得点表〔純英国風タンゴ・オープン選手権大会得点表〕　六審査員　24

自由型ブルース競技成績〔本社主催　明朗・自由型ブルース競技会成績発表〕　代阪信義　26

ヴアリエイシユン百集（三）（スケイタス・ワルツ）　武内忠雄　26

『噂・話』　筑波三郎　35

新聞切抜帖　38

人事往来　編輯同人　39

〔大正日日新聞社主催〕女給さんの舞踏競技〔会〕　代阪信義　41

横浜の女子オープン競技会〔横浜市協賛・復興博覧会記念　全日本女子オープン選手権大会観戦〕　小山賢之助　42

横浜ダンス・テイーム満洲遠征　本社員　43

ニユウ・ラムバ（シルヴエスタ）　パレス教授部　平岡英夫(訳)　44

〔ジヤズ・音楽界の人気者　梅澤清一氏の経営せるジヤズ・バー　梅澤氏の酒場趣味　46〕

ダンス新聞　編輯同人　47

音楽と踊り　〔アストリア・クラブ理事〕　植田三郎　48

大連の舞踏界から〔大連の舞踏界〕　公認・大連舞踏教師協会・代表　小田壽也　50

武内氏の日本風舞踏を見る〔武内忠雄氏按舞の日本風ダンス〕　戸波恒郎　51
踏界片々　武内忠雄　52
だんすや・打明ばなし〔踏床・楽屋噺〕　幾津太郎　53
ダンス用語の定型　玉置眞吉　54
「ホール商売辛い哉」　安原疏之助　55
〔綺麗な女先生　野田操子さん（タイガー教授部）　口絵〕
〔女子大学出身のダンサ　桂宮子さんの作歌「ホノルヽの月」クリスタルで吹込完了　口絵〕
〔西下するハワイアン・バンド　ヒロ・カレッヂアン・セレナーダズ　口絵〕
〔東京・日米舞踏場でムーア氏タンゴ発表　1〕
加藤兵次郎氏の世界舞踏行脚〔南米アルゼンチンへ舞踏行脚の加藤兵次郎夫妻〕　2
〔写真のモデルは加島きみえさん（西宮）　3〕
〔純英国風〕タンゴの選手権獲得者、八尾清氏〔（和歌山）　田中清子嬢（パレス）〕　4
スロウ〔フオクストロット〕の選手権獲得者、小原菅夫氏〔（大阪）　田中滋子嬢（パレス）〕　5
〔美鈴愛子さん（タイガー）　6〕
〔隈田登志子さん（タイガー）　7〕
英国風舞踏発揚の写真
〔帝協幹部連西下す　審査員の模範ダンス発表　8〕
〔本社主催一九三五年度純英国風タンゴ（オープン）選手権大会　25〕
〔明朗・〕自由型ブルース優勝者、公森茂氏〔大木正枝嬢〕　27
〔中濱喜久子教師のシヨウ・ラムバ発表　28〕
〔アルゼンチン・タンゴの夕（尼崎）　29〕
〔十倉艶子さん（桂）　30〕
〔栗田幸代さん（パレス）　31〕
〔羅門光三郎一行　極東映画男女スター連　尼崎ホールで踊る夕　32〕
〔薬専出の伊丹順子さん（西宮）　33〕
〔西宮ダンサのタンゴ・アンサムブル　34〕
独演会の梅田孝一郎氏〔梅田孝一郎氏　独演会　ハマの踏界活況　35
〔勝矢きし乃さん（西宮）　36〕
〔浦邊葉子さん（西宮）　37〕
〔前途を待望さる荒尾正則君　39〕
本社特別大懸賞「写真当て？」　40
二宮尊徳像を寄贈した高橋虎男氏〔第二国民の精神涵養に尊徳先生の銅像を母校に献設〕　49

第6巻第5号（盛夏特輯号）　1935年8月（1935年8月14日印刷／9月1日発行）

〔目次なし　この号はすべて誌面から再構成〕

〔表紙　準『海の女王』第一位当選　尼崎ダンスホール　尾原綾子さん〕
〔日満舞踏使節　記念の演技発表会　1〕
〔話題の人（一）美鈴愛子さん（タイガー）　2〕
〔話題の人（二）伏見美子さん（タイガー）　3〕
〔吉原、勝矢のC組優勝　ダンサの対抗競技会　4〕
〔全関西社交婦人水泳大会ニユース　5〕

〔スロウ・フオクストロツト競技会　6〕
〔フオト・ニユウス　本社主催のラムバ競演、横浜社交 パレスでデモ、
　横浜社交の人々 花隈でデモ、横浜社交 キングで公演会、大連、東亜会館で　7〕
〔芸名を三つ持つ小澤進一氏（パレス）　8〕
〔断寸片　ダンスフアン　八木亮輔　9〕
〔芸術としての社交ダンス　医学博士　金森義雄　10〕
〔満洲の舞踏界（一）七月旅順大和ホテルの旅宿から　玉置眞吉　12〕
〔踏床楽屋噺（ヨンデモタメニナランハナシ）（其二）　幾津太郎　15〕
〔英国風舞踏の真髄（No.3）　武内忠雄　16〕
〔スロウフオクストロツト選手権大会　羽室太郎　18〕
〔スロウ・フオクストロツトの音楽と踊りの要諦　金森義雄　20〕
〔舞踏界雑記帳　身辺種々（ぶとうじんひとりごと）（第一稿）　帝都舞踏場　藤山於莵路　23〕
〔「海の女王」選定大会にタイガー堂々の陣容！　日之出麗子、岩佐園枝の二人当選す　25〕
〔準「海の女王」当選　澤田千代子（西宮）　26〕
〔今は亡き数の人　高瀬嘉子の追懐 尼崎・西宮　安原疏之助　26〕
〔全関西婦人水泳競技に優勝してニコニコ〔くの字点〕 水上ニシノミヤの偉観　27〕
〔あの男ならでは……と経営者のお気に入り　キングのバンドマスター梅澤清一氏のこと　28〕
〔踏界片々　武内忠雄　30〕
〔夏日三題（おもひだしたまゝ）　イクツ・タロウ　31〕
〔満洲舞踏人の横顔（まんしゅうダンスじんのプロフヰル）（一）　玉置眞吉　32〕
〔準「海の女王」当選第二席　日之出麗子さん（タイガー）　34〕
〔横浜の舞踏界　今昔物語り（中）　横浜社交舞踏教師会理事長　高橋利併　37〕
〔中瀬君子さん（西宮）　38〕
〔米田美津子さん（西宮）　39〕
〔小林あき子さん（西宮）　40〕
〔音楽界　安井清士君　花隈に招聘され　40〕
〔中島貴美子さん（パレス）　41〕
〔中川宏士路氏（西宮）　42〕
〔教授部は多士済々　若手揃ひの堅陣　尼崎ダンスホール　43〕
〔宇都宮英氏　44〕
〔桂会館と花形ダンサ　45〕
〔スター・オブ・キング（キングダンスホールの第一選抜級の人々）　46〕
〔嘗ては西宮ホールのナンバ・ワン　小島やす子さん尼崎ホールへ転ず　47〕
〔千葉加代子さん（京阪）　47〕
〔「海の女王」選定大会得点表　59〕
〔「アクセント」考　京都　上田敬三　60〕
〔西宮タンゴ・チーム　インタビュー　61〕
〔踊り易いカリオカ　ヘンリー・ジヤツク氏　小山賢之助(訳)62〕

第６巻第６号～第７巻第１号　＝未発見

この欠号は、ほとんど未刊だった可能性が高い。第７巻第２号の編集後記にあたる「僕のペイヂ」に「印刷所との問題」のため「久しい間、休刊」したと記載されている。

第７巻第２号（６月号） 1936年６月（1936年５月30日印刷〔裏表紙では５月25日印刷〕／６月１日発行）

「もくじ」

表紙 東松二郎氏（ダンスパレス）
〔春酣・扇港舞踏界の活況！ 1〕
断寸片〔ダンスフアン〕「チーク・ダンス」禁止話 晩我楼主人 3
何たる盲断ぞ「緒方君に与ふ」〔緒方某の迷妄をひらく〕 植田三郎 5－7
藤山一郎君の印象 高橋虎男 7
ダンス界問答（読者と記者）〔問と答 読者と記者通信〕 編集部 8
英国風舞踏の真髄（No.5） 武内忠雄 9-11
〔若手連を凌ぐ〕老童（オールドボーイス）クラブ・メンバ活躍 本社記者 10
「リズム音楽と舞踏」運動勃興〔ジヤズ音楽の正しい理解を与へる〕 12
踏界夜話（ワルツ競技会評その他） 金森義雄 13
踏界二ツの痛恨事（安原 宮崎氏の死） 玉置眞吉 15
閑話「スケイタス・ワルツ」 藤山 瞭 17
ダンサ最近の成績表と概評〔各舞踏場の「ベスト５」陣〕 19
新聞にダンサの答案と健康問題〔ダンサの答案と健康のもんだい〕 晩我楼主人 20
関西で見たビツグ・シヨウ評〔光田、小山、武内氏のビツグ・シヨウ評〕 名和双葉 23
日本のダンスホールはお上品〔です〕 〔ツーリスト・ビユーロー嘱託〕 ポール・ケート 24
〔東松二郎氏の〕『アヅマニアス』を語る〔（東京時事新報再録）〕 大井蛇津郎 25
或日の歌・音楽・踊り〔或る夜の歌・音楽・踊り〕 水木城二 26
ダンス映画再考録 〔ナワ・シヨウダンス・チーム〕 名和双葉 26-29
オープン・ワルツ競技会得点表 28
ヴアリエイシヨン集〔（六）〕（ブルース） 武内忠雄 31-33
踏床楽屋噺〔No.5〕 幾津太郎 35-37
〔キツスは他所ではよいが踊場ではいかん ソヴエートの舞踏狂時代 37〕
〔一九三六年度ニユウステツプ発表 グランド・デモンストレイシヨン 38〕
クキツク・ステツプの変型 〔シルヴエスタ〕 大鹿章（訳） 39
全日本〔社交ダンス〕オープン競技〔選手権大会〕関東予選 玉置眞吉 41
全日本〔社交ダンス〕オープン競技〔選手権〕大会記〔関西予選〕 八木亮輔 41
人事往来 43
〔社交ダンスの封切場評 幾津太郎 43〕
「噂・話」 44-45
〔新聞に「若様楽士」パレス・タンゴ バンドマスター 山本俊二君 45〕
「僕のペイヂ」 亮生記 48
グラフ
〔ビクターからテイチクへ 天才楽人〕藤山一郎氏 2
〔横浜の舞踏競技選手からミユジツシヤンへの転向鮮やか〕山本俊二氏（パレス） 4
〔紳士型社交ダンス競技会〕老童競技優勝西川寅之助氏〔（O・Bクラブ、木本正枝嬢（尼崎）〕 10
ルムバ〔競技会に〕優勝吉江楢雄氏〔（大阪）、及川正子嬢（西宮）〕 14
本社春の催し物集 18

小山賢之助・八尾清氏　40
〔武内氏独演会に見事なパートナぶり〕隈田登志子〔さん（タイガー）　8
〔女王、東へ行く〕吉原美代子〔(西宮→タイガー)〕　12
浅智來子（あさ・ちきこ）〔さん（キング)〕、三本静子〔さん（尼崎)〕　16
〔マネジヤになつてぼつぼつ〔くの字点〕腕前発揮する〕青柳武夫氏〔(ダイヤ)〕　20
〔躍進　歌姫〕ミツキー・タキ〔嬢（タイガー)〕　21
〔小林千代子嬢キングホールで歌ふ　少女サービス　22〕
〔ルムバを踊る〕光田悦之扶氏〔松波嬢との名コンビ〕　23
〔キングダンスホールの〝リズム・ガールス・ジヤズバンド〟　24〕
〔ダンスタイガーが開館三周年をめでたく迎へました　26〕
〔(新人紹介）山上輝さん（尼崎)、橋口登志子さん（尼崎）　29〕
〔国道佳人双曲線〕草丘潤子〔さん（パレス)〕、四條美也子〔さん（尼崎)〕　30
久保百合子〔さん（西宮)〕、望月静江　さん（西宮)〕　34
竹久栄子〔さん（西宮)〕、郡司桂子〔さん（西宮)〕　36
〔小山賢之助氏、前田啓子嬢　八尾清氏、吉原美代子嬢　40〕
〔尼崎ダンスホール「ヤング・メロデイアンス ダンス・オーケストラ」〕安井清士氏　44
〔西宮ダンスホール「芝辻エンド・ヒズ・オーケストラ」〕芝辻賢三氏　45

翻刻　断寸片（ダンスフアン）「チーク・ダンス」禁止話　晩我楼主人

頬つけダンス

昨年の春あたりから、ダンスホールで頬ベタをつけて踊る風習？ が、ガゼン流行しだして来た。

喜ぶべき現象か、哀しむべき趨勢か── などと相当もんだいになつてゐるうちに、流行は流行を産んで、昨年暮のクリスマス頃から正月へ、更に春先へかけて猛烈に蔓延、猖獗を極めてゐたかの如き状態であつたが、どうやら最近になつて警察側から阪神間の各ホール業者へも警告があつたらしい。

東京市内のダンスホールは、フロリダなどで殊に、流行してゐたそうだが、関西より一足お先に、お布令が出て

「頬つけてダンスする者は罰金二円也」

で、お客と頬つけて踊る舞踏（ダンサ）手は警戒中の「その筋」の恐いオヂさんから、チヨイと来いと引ツ張られて二円の科料を取られる。それが度重ると舞踏手の免許状を没収されるのやそうである。

頬づけダンスは、これをお上品にいふと、(Cheek Dance）チーク・ダンスといふが、関西のダンサの中でも、この術でお客を釣つてゐた子は大恐慌を来たすことだらう、とともに結局は真面目に働いてゐた子の勝利となるわけである。

よした方がよい理由

そこで、私は私の立場からこの問題を批評すると、たとへホール業者の気持を察し、ダンサ諸嬢に深い理解と同情は人一倍もつてゐるものではあるが、現在の舞踏界の状況から見て、矢張りチーク・ダンスはしないことにした方がよい。

ダンサに頬ずりダンスや淫猥な動作を敢てなすが如きお客に対してダンサは憤慨したり拒絶しない風習が拡まると、お客は「ワイかて、せにや損や」てな了簡を起す。

こんな特殊サービスの術を得たり賢しとテイケツト政策に用ひるダンサは好都合かも知れぬが、まじめな気持を持つてゐる大半のダンサにとつては実に困つた流行である。拒絶しきれずに客のなすままにしておいて、後でダンサ部屋に帰り化粧直しをしながら泣いてゐた子を幾度も私は、この眼で見てゐる。

欧米ではチーク・ダンスなんて、ヘツチヤラである。日常の茶飯事に属し、全然問題ぢやないが、日本の事情は、国民性がまだまだ〔くの字点〕これを今遽かに許しそうにもない。

社交ダンス反対論を唱ふる総ての者の意見の根底は「わが国の醇良なる風習に反する」といふにある。果して彼等のいふ、わが醇風に反するや否やは他日の論題として、ともかく色眼鏡で睨まれ、今日の発達をなすまでに十有余年間に亘つて圧迫、弾圧を食い多難な経路を辿つて来たダンス界であるだけに、一層の自重が望ましい。

……それはダンスホール業者各自のためであり、ダンサ諸嬢の将来のためでもあるからである。

聞け、この述懐を

ダンスパレスの新澤専務は、この傾向を見て或日左の如き述懐を洩らした――

『よその大切な娘さん、六十余名を預かつて商売はしてゐるもの丶、あの娘は素行がよくないとか、エロ・ダンサだとかの評判を、どうぞして立て丶貰ひたくないと願つてゐる。まして、お客に対する或る種の術策を慫慂したり特種サービスを勧めたりは絶対にしたくない。……私も娘をもつ人の子の親である』

また『自分のもつパートナとしての踊りの技術と、まじめな気持と、娘らしい従順さと魅力で、それで沢山だ。或は人妻であるものもゐるだらうし、また大部分の者が結婚を目前に自立生活し、または一家のために健気にも働いてゐる大事な身体のものばかりであるからだ』と。

私は、「人間・新澤」の真情に打たれてしばし感慨無量の態であつた。

ダンサに恋すれば

こ丶に舞踏愛好者諸氏の中で、ダンスホールに行くうち、ダンサＡ子なるものに恋心を覚えたとしませんか、或はまたＢ子なるものと肝胆相照らしてゆくゆく〔くの字点〕は結婚してもよいとまで考へるやうになつた頃に、その相手がお客と頬ずりしながらワルツかなんかを踊つてゐるのを見ると、たとへそれが彼女の商売のための単なる政策であり、また余儀なく客のなすがま丶に委してあつたとしても、あなたはキツト腹立たしくなり、情けなくなり、恋する女を怒りお客を恨むことでせう。致し方ありません、これが恋するもの丶人情といふものでせう。

私の頭は、まだ旧式なのかも知れません。けれども「多勢の人前で男女お互ひが皮膚面を接触しないのをもつて日本古来の醇風とした」その永い間の風習に私どもは今遽かに抵抗しやうとは思ひません。まして洗練されない舞踏中野卑な動作は特に然りです。

湧き出づる情熱と興奮をジーツと抑へて慎みを忘れないところに日本民族の血を引いたわれわれ〔くの字点〕近代日本紳士、日本娘の真価があるのだらうと思ふんですが……。

第７巻第３号（７月号）　1936年７月（1936年７月14日印刷〔裏表紙では６月30日印刷〕／７月15日発行〔裏表紙では７月１日発行〕）

〔目次なし　この号はすべて誌面から再構成〕

〔**表紙**　秋月照子さん（タイガー）〕
〔珍しや、三年ぶり　神戸でダンス競技会　1〕
〔関西中央新聞社・主催「クキン大阪」選定大会　準女王第一位　丘弘子さん（西宮）　2〕
〔忘れられた錬磨　医学博士　金森義雄　3〕
〔江川すみえさん（タイガー）　4〕
〔踏界雑記　國枝史郎　5〕
〔スミスもシルヴェスタも赤い顔！　プル・ステップとスウェィ　玉置眞吉　6〕
〔断寸片（ダンスフアン）　晩我楼主人　9〕

〔本社主催ク井〔ママ〕ックステップ・アマチユア競技大会記　総評　大会委員長　八木亮輔　10〕
〔　概評　審査委員　武内忠雄　11〕
〔　概評　審査委員　小山賢之助　11〕
〔本社主催クキツクステツプ・アマチユア競技会　準決勝　決勝戦　得点表　12〕
〔本社主催ク井〔ママ〕ツクステツプ・アマチユア競技会　優勝
　關根幸四郎氏（東京）、百合暁子さん（東京）　13〕
〔全関西婦人社交ダンス選手権大会　踏天紅生　14〕
〔大正日日新聞社　全関西婦人社交ダンス　クキツクステツプ選手権獲得者
　水戸嬢（大阪堂ビル北 北陽マルタマ）、山本美枝子嬢（パレス）
〔大正日日新聞社　全関西婦人社交ダンス　タンゴ選手権獲得者
　榛名嬢（大阪堂ビル北 北陽マルタマ）、隈田登志子嬢（パレス）　15〕
〔リズム研究の捷路に　随一のラツキー・レコード　八木亮輔　17〕
〔踏床楽屋噺（ヨンデモタメニナランハナシ）　No.6　幾津太郎　18〕
〔VARIATION QUICKSTEP（No.2）　シルヴエスタ氏（案）　大鹿章(訳)　21〕
〔アステーア映画批判　ダンス映画「艦隊を追つて」を見て　立波高雄　23〕
〔英国風舞踏の真髄（No.6）タンゴ編　武内忠雄　24〕
〔ジヤズの伊達者（ダンデイー）　ハリー・リツチマンの事　夕刊大阪新聞記者　布上荘衛　26〕
〔満洲散歩記（ちよいとマンシウゆき）　高橋虎男　27〕
〔幾島きぬさん（西宮）　香取久美子さん（西宮）　28〕
〔コロムビア七月新譜邦楽流行歌　ダンスレコード通俗解説　武内忠雄　29〕
〔南美子さん（西宮）　瀧川三重子さん（西宮）　30〕
〔女専出身で庭球の選手権保持者　小泉幸子さん（キング）　32〕
〔三つ巴のレヴユー合戦　八月の松竹と宝塚陣　32〕
〔展望台から（エツキスキウス・ミー）　水木城二　33〕
〔噂話　33〕
〔ヴァリエイション・ステップ集（七）　編輯・注解　武内忠雄　34〕
〔ニユウ・ステツプ発表　競演大会の夕　35〕
〔踏めよ！踊れよ！　栄えるダンス、明朗キング　36〕
〔舞踏手・最近成績ベスト・テン（六月末調）　36〕
〔西宮ダンスホール教授部の新陣容　教師 光田悦之扶氏、教師 川西忠雄氏　37〕
〔ダンスタイガー開館三周年記念　従業員表彰式と父兄懇談会　38〕

この号は、定価が25銭となり５銭の値下げが行なわれた。そのためか「普及版」という文字が表紙に添えられている。

翻刻　断寸片（ダンスフアン）（抄録）　晩我楼主人

〔前略〕

オリムピツク・ダンス競技

今夏、ベルリンで催されるオリムピツク競技種目の一として、社交ダンスの競技が加へられることになつたからとて、ベルリンのゾマー氏から宝塚会館の加藤兵次郎氏のもとまで、日本を代表するア

マチユア選手一組を派遣されたい、と勧誘があつたそうだが、パートナと二人分の旅費が、とても高くつくし実現困難な話と判りきつてゐる。

競技種目も正科四つに、クヰツクワルツの五種で、技量からいつても「この人なら……」と推薦できる人は日本の現在のアマチユアの中に見出し得ないのだから縁遠い話である。

ともあれ、オリムピツク競技種目の一つに社交ダンスが加へられた、といふ話を聞いただけでも吾人は嬉しくなる。

これからは教育屋さんも、新聞屋さんも、議論屋も国粋屋さんも、サーベルさんも、ヤボなダンス是非論は止しにしませうね。

そして踊りたくないものは踊るまいし踊りたいものは踊るのです、競技型でも、リズム・ダンシングでも……。

〔以下略〕

第7巻第4号（銷夏特輯号） 1936年9月（1936年7月31日印刷〔裏表紙では8月20日印刷〕／8月1日発行〔裏表紙では9月1日発行〕）

「もくじ」

〔**表紙**　飛鳥明子さん（尼崎）〕
〔暑中お見舞申上ます　隈田登志子（タイガー）　2〕
〔吉井政子さん（西宮）　3〕
〔暑中御伺　〝アヅマニアス〟コンダクター　東松二郎　4〕
── 論作・随筆 ──
〔夏を彩る〕各新聞社の夏の行事　八木亮輔　1
断寸片〔ダンスフアン〕　晩我楼主人　3
踏床楽屋噺〔（ヨンデモタメニナランハナシ）No.7〕　幾津太郎　9
〔ボールルム・ダンスの新分野〕シヨウダンス再認識　武内忠雄　11
「池原さん、研究が不足です」　西水野増美　14
東方便〔ひがしのみやこのだんすだより〕　藤山於菟路　29
ダンス放談　宇都宮英　31
舞踏随想　経済学士　澤　一夫　37
展望台〔噂・話〕　水木城二　47
── ニユウス物 ──
〔リズムの波に乗つて〕ジヤズは世界を廻る　本誌記者　17
映画、音楽、ダンス　19
ラヂオ、音楽、ダンス　21
〔大阪日日新聞社主催　1936〕海の女王選定大会、得点表　25
ダンサ成績ベスト、テン〔舞踏手・最近成績ベスト・テン〕　25
OB〔アマチュア〕タンゴ競技会評　武内忠雄　33
〔近頃、〕奇ッ怪な京都〔で〕の競技会〔顚末〕　小林吉三　35
── ステツス〔プ か〕集 ──
ブルー・リズムの踊り方　小林吉三（訳補）　27
ヴアリエイシヨン〔ステップ〕集〔（八）〕（タンゴ5篇）　武内忠雄　41
クヰツク・ヴアリエイシヨン〔（No.3）〕　〔シルヴエスタ氏（案）〕大鹿章〔（訳）〕　45

〔大阪日日新聞社・主催　一九三六年度『海の女王』選定大会　準女王当選者第一位
　田井久代さん（元・尼崎）　6〕
〔大阪日日新聞社・主催　一九三六年度『海の女王』選定大会　準女王当選
　奈加美佐緒さん（タイガー教授部）　7〕
〔関西中央新聞社・主催　一九三六年度「クヰン大阪」当選　第五席　花村君子さん（尼崎）　8〕
〔艶姿・清楚（むすめがた）二人鑑　竹田好江さん（タイガー）、西條悦子さん（ダイヤ）　16〕

このあとの号は未発見である。戦時下の困難な状況で、出版されずに中断した可能性は高い。ただ、第二次世界大戦後に復刊した際に、戦時中の経緯について説明した記事などがないため、詳細は不明である。

この号については、創刊当初、５周年の時期と対比できるよう、広告についての情報を記載する。

表紙裏は大連会館（大連市信濃町）で、内地からのダンサーの募集広告を兼ねている。つづいて綴じ込みの横長両面刷りのキングの広告（開業５周年）、５ページにはヱレガンテ美容院（神戸湊川神社）、８ページは日本社交舞踏家協会の暑中伺広告、それに日本舞踏協会の２周年記念舞踏大会の広告。10ページは西宮、12ページは尼崎の各ホール、14ページは組広告で、ミツヰ喫茶（神戸元町）、日本舞踏協会代表・松浦武男の暑中伺、東亜会館（大連市岩代町）の暑中見舞、パレス教授部である。

15ページは、伏見美子（タイガー）の個人暑中伺、16ページは関東舞踏審査員会と関西舞踏審査員協会の合同の暑中伺、17ページはコロムビア洋楽鑑賞協会・ラッキーレコードのダンス新盤特選集、18ページは田中徳三郎のタンゴ・バンド（ソシヤル）、花隈教授部の平林春一の個人暑中見舞、瓦屋町洋裁研究所・安田テイスケ（大阪市南区瓦屋町）、タイガーの系列店で喫茶・洋食のベビー・タイガー（阪神国道杭瀬・ダンスタイガー西）とつづく。

20ページはダンサーの個人暑中見舞で、多喜弘江と千葉加代子（京阪）と明石孝榮（尼崎）、21ページ櫻井洋品店（神戸市元町）、22ページは宇都宮英（西宮教授部）の個人暑中見舞いと、帝都舞踏場（東京）、荒木洋装店（神戸市葺合区）。23ページはダンス教師・小山賢之助の個人広告、前野港造とその楽団（ガーデン）の暑中伺、高橋虎男（タイガー）の個人暑中見舞、24ページには鈴蘭ダンスホール（鈴蘭台）の暑中見舞がある。

それ以降のページにはダンサーの名前がならんだページがあり、一同による暑中見舞のかたちだ。これは、当時の新年、夏の号では恒例の形式である。26ページはタイガーのダンサー一同による暑中見舞、30ページは尼崎のダンサー一同、32ページはガーデンとつづく。33ページは桂宮子（パレス）の個人の暑中見舞、34ページは西宮のダンサー一同、36

ページはダイヤのダンサー一同となる。38ページから40ページは、ダンスの教師たちや、関係者の名刺型広告で、16名ずつ48名が並ぶ。大連、奉天、哈爾濱、天津、新京、旅順などからのものもある。

42ページはパレスのタンゴ・アンサンブルの山本俊二の個人広告で、手にしている楽器はバンドネオンではないかとみられる。それに、ダイヤ倶楽部の増改築広告と、武内忠雄監修の『ヴアリエイシヨン・ステツプ集（第一輯）』の広告の３点が掲載されている。43ページは青柳武男（ダイヤ）、西宮教授部の、いずれも暑中伺。44ページはソシアルの暑中見舞と、生田茶房（青柳武男　生田神社）の広告、神戸トイレツト美容室（中野京子　神戸阪神前ビル）の広告。46ページはタイガー教授部、島田靴店（西宮市寺後町）、47ページに櫻井洋品店（神戸市葺合区）、48ページの奥付ページはパーマネント・みどり美粧院（三宮）。裏表紙の内側はパレスの全面広告で、裏表紙はマルタマのグループ広告（道頓堀マルタマ、神戸マルタマ、北陽マルタマ）となっている。過去のものとくらべると、業界内部あるいはその関係業者の広告によって占められているといってよい。また個人の広告が多いのは、暑中見舞いの季節ということもあるがそれだけ多くの教師やダンサー、ホール経営者から確実に広告料をとる狙いがあったものと推測される。

―2020.11.30受稿―